關西大學學報

第百四十八號
昭和十二年四月

關西大學學報局發行

經濟特殊研究叢書

東京帝國大學教授 矢内原忠雄著

帝國主義下の印度

附 アイルランド問題の沿革

★ ★ ★ ★

菊判上製函入
總紙數 三三〇頁
定價 二圓五十錢
送料 内地 十四錢

新刊

本書は、印度問題概觀、印度幣制の植民政策的意義、印度工業と植民政策、印度農業と植民政策の四章に大別して、印度の經濟は英國の統治政策によりて如何に影響せられたかの問題をば、特に印度國民運動の發展に關聯せしめて論述したものであり、更に「アイルランド問題の沿革」を附錄として掲げる。本書は、植民政策の立場より見たる印度經濟の科學的分析であり、又帝國主義下に於ける植民地の經濟的政治的發展動向に就いての科學的認識であるが故に、啻に印度問題アイルランド問題研究の學問的興味のみならず、朝鮮、臺灣、若しくは滿洲經營上參考と爲すべき實際的示唆を含むものとして、爲政者、學徒は固より、凡そ植民地問題に關心を有する士の必讀すべき書である。

著者は現代に於ける斯學の權威、その豐富なる蘊蓄と鋭き觀察とに聞け

大阪商大教授 經濟學博士 堀經夫著 地代論史 近刊

株式會社 大同書院

大阪北區梅田新道 振替大阪一三九七二番 電話北一六五七五三番

東京駿河臺中央大學前 振替東京八二二二八番 電話神田二二二八番

目次

學長就任に際して…神戸正雄（一）
學内報……（四）
卒業證書授與式—天六學舍增築工事竣成—人事異動—新舊學長歡送郵會—研究論集組織變更—がくほう抄—卒業及進級成績優等賞狀授與者—卒業生送別會
本學年度學科目擔任表……（九）
校友……（一四）
校友總會—大連支部—川邊支部—岡山支部—動靜移動
昭和十二年卒業生氏名……（一六）
關大スポーツ……（二三）
陸上競技—庭球—籠球—米式蹴球—野球—航空
學生……（二三）
東亞研究會—基督教青年會
學報俳壇……（二四）

學長就任に際して

法學博士　神戸正雄

私は今回惴らず、舊同僚にして畏敬する先輩たる仁保博士の御推薦を蒙り、理事會の御懇囑により本學の學長に就任する事となりました。私、素より薄德短才ではありますけれども、一旦御引受け致しました以上は、誓つて私としての最善の努力を盡して責務を全うしたいと存じます。諸君に於かれても私に對して御好意と御支援とを惜まれないことを願ひます。

本學は既に創立後五十有餘年を經由し、其基礎は最强固とはなりましたけれども、尙ほ未だ理想的完備を遂げたとはいふことを得ませぬ。なほ改良すべきものが殘つて居りますから、其については私は聊か遠大なる目標を定めて、一歩々々と向上改善に進めたいと存じます。固より急激なる變革を行ふことを避くる積りであります。

私の今後に於ける教育上の方針と致しましては、先づ以て何よりも

教育勅語

の御趣旨に從ふことを以て第一義と致します。

其の御趣旨の下に、既に前學長時代に定まつて居る所の三大方針、即ち、（一）人格の陶冶、（二）國家思想の涵養、（三）現實的理想主義を遵守するものであります。要綱としては此に加ふるの必要を認めませぬ。併し之が説明については、私は私自らの體驗に基く私獨自の見解を有ちますから、此機會に之を披瀝して諸君の御賛同を得たく、少くとも御參考に供したいと存じます。

勿論、大學の使命が右三大方針の外に、學問の蘊奥を攻究し且つ教授することに存するのはいふまでもありませぬ。大學としての此本質的なる目的を忘れてはなりませぬ。併し斯の如き教育方面にばかり力を用ゐて德育を忽にしてはならぬのであつて、實は舊時代の我國に於ける大學教育が恰かも智育偏重の教育であつたのであり、其爲め望ましからざる事態をも引き起し、之に氣付きて段々と德育の點に重きを置くやうになつて今日に至つたのであります。併し又更に突き込んで考へて見ますと此の智、德の二點の注意だけでも十分ではありませぬ。尙ほ體育を大切にしなければなりませぬ。健全なる精神は健全なる身體に宿るものであり、そして如何に智德の兼備した人であつても、身體が虛弱であつては世の中に立つて仕事を爲し貢獻することは出來ませぬ。特に此非常時代に臨んで激務に就き、國家的使命を果す事は出來ませぬ。だから諸君は常に保健に留意されなければなりませぬ。

學問の修得については、點取主義や席次爭奪戰に捉はれず、實力養成主義を把持して、事理を眞實に諒解し、思考力、判斷力を養ひ、推理し應用し得る頭を作ることに意を用ゐなければなりませぬ。記憶も凡べての方面にて或度までは入用です。科目によりては、此が特に大事ではありますが、其ればかりに捉はれず、工夫力、推理力を養ふことにしなければなりませぬ。

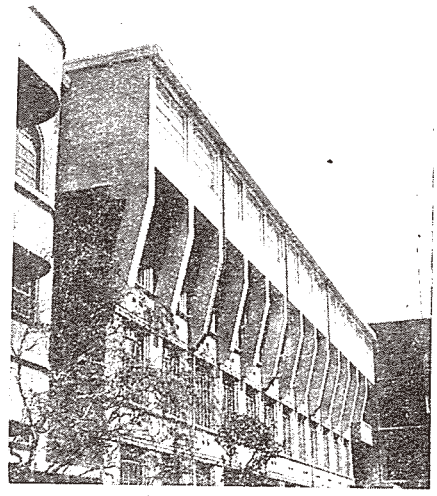
さて本學教育上の三大方針といふのは、つまり此の智育に關するよりは、むしろ德育に多く關して居ります。中に就いて國家思想の涵養と、現實的理想主義とは、多くの說明を加へずとも、諸君の御了解のことであります。此は說明を要しないけれども、大切な事柄ではあります。國家思想の涵養は、今日は、國體明徵として世間の注意を引いて居りますが、此はつまり、歷史の產物として存する現實なる我國家の本體をば十分に理解して、外國に其の比を見ざる美點を深く銘記して、此日本國家に對して强き愛着、即ち熱烈なる愛國心を有つやうになることを期するものであります。現實的理想主義とは、國家の問題を考ふるについても其他諸の社會現象を考ふるについても、單純なる理想にばかり耽つてはならず、又、單純に現實にのみ捉はれてはならぬ。現實に即して理想化を計ることを期すべしとの意である。かかる態度によりて學問を研究するに於ては、單なる空論に走らず、能く實際的なる問題を取入れることにあり、實務に當りては學問を應用して其改善に資することになるのであり、かくして學問も死學とならずして生きた學問となり、實際も亦眠つた實際ではなくして、生氣あり益々進步する實際となるのであります。

三大方針中に就きましても、人格の涵養は實に最重要なものであります。之を擴充すれば恐らくは凡べての教育方針をも、即ち德育のみならず、智育も、體育も含まれます。併し茲には其等を別としてむしろ主として德育上の問題と解して考察します。さうすると、其は人間の最終目的たる人格の完成を促進することであります。かかる人格の完成といふことは動もすれば人間性に固着したる卑しき動物性から遠ざかつて、崇高な

る神性に近づけることであります。其は又、我々お互の日常の生活に於て、學生としては勉强に從ふ間に於ても、進んで社會に出でて働く間に於ても、現はるる所の態度を美化することであります。學生としては其勉强に沒入し、世の中に出でては其々の仕事に、政治にせよ實業にせよ其々の仕事に沒入する、己の心も身も凡べてを其に打込むときに、冶んど我を忘れて其務めに懸命になるときに、却つて人格は失はれずして、最良く其人格を伸ばすことになるのであります。そして斯かる態度としては更に詳しくいふと、何といふても先づ以て努力第一であります、勞せずして果を求めんとするは不當でもあり、又、多くは不可能事でもあります。そして其には熱心、懸命、細心、大膽、勇氣、忍耐などが附帶します。人は斯くの如くに努力をしてこそ其各人に其々存在の意義を生じ、やがて一城の主ともなり、少くとも天下の一隅をも占めることとなりませう。第二には創意が望ましいのであります。單なる努力だけでは無駄骨折となることがあります。何等か工夫し、應用し、改革し、展開することが肝要です。創意の加はることによりて努力が生きて來る。効果的となります。それによりて世の中の進歩に貢獻することにもなる。學生としての勉强中に、單なる記憶にのみ捉はれず、工夫力、思考力を養へとは此あるが故であります。第三には正直、誠實、正義心を失つてはなりませぬ。如何に創意を加へて努力を爲しても、仕事に虛僞が伴つては、世の人々から信用を受けることは出來ませぬ。獨り社會的に排斥を受くるのみならず、各人の有つ良心の苛責をも受けなければなりませぬ。かくては本當の人間的生活は出來ませぬ。第四には自制を望ましとします。人間は兎角、利己的のものであります。他人、世の中、公、國家の利益を傷けても自己の利益を計らうとします。併し社會、及國家生活中にありては人は單純なる利己は許されないのであります。他の人々、國家などと共力することが肝要であります。自由主義といふが單なる自由といふことは許されませぬ。强制、他制を待たずして各人進んで自制するのが最望ましいのであります。かく自制しつつ、公に奉仕し他の人々の爲めに盡し、他の人々の利益を妨げないやうに心掛けなくてはなりませぬ。以上、人格涵養については說明すれば際限もありませぬが、兎も角、人格涵養といふことは最大切な事でありますから、諸君に於かれても篤と御考を願ひます。

終りに諸君は、常に諸君の親御と國家とを忘れられないやうに願ひます。諸君の親御は諸君をば自分よりも可愛と思つて居られる。諸君は親御に取りては大事な寶である。國家からいふても諸君に待つ所が大であり、國家の隆替は實に諸君にかかるのである。諸君は即ち國家の寶である。諸君は親御と國家との期待に背かないことを念じ、益々自重して健康に注意し、精神を修養しつつ、學業を勉强されんことを願ふものであります。かくて能く諸君が立派なる人間となることも出來るし、國家も必要なる人材を得て其發展を遂ぐることが出來やうと存じます。

卿か所見の一端を述べて就任の御挨拶と致します。



（增築成れる天六學舍）

學內報

卒業證書授與式

本學卒業式は學部第十三回を三月二十日午後二時より千里山學舍威德館に於て、專門部第一部第五回並に第二部第四十九回を同日午前十時より天六學舍講堂に於て擧行した。卒業證書授與の後、仁保學長の式辭、文部大臣、大阪府知事、大阪市長、校友總代の祝辭あり學生生徒各部總代の答辭ありて閉式した。

卒業生氏名並に受賞者氏名別項の通り

仁保學長式辭

閣下並に各位、本日茲に大學部第十三回、專門部第一部第五回、第二部第四十九回卒業式を擧行するに當りまして、遠路多數來賓各位の御臨席を賜りまして誠に本學の光榮とする處、謹んで謝意を表します。

只今卒業證書を授與せらるゝ數は大學部二百十三名專門部第一部二百六名、第二部六百七十名、合計一千八十九名であります、而して本日迄の卒業生を合しますと一万三千三百三十一名に達します、斯くの如く多數の卒業生を社會に送りました功績に就きまして、先以て教授助教授講師各位の格別の御厚意に對し、深甚の謝意を表する次第であります。

此の機會に於きまして本學の現況を述べますに其の校運は順調に發展いたしまして、現在學生生徒數は七千名に達せんとする盛況であります、昨年五月には本學創立五十年記念式典を擧行するに際しまして長くも恩賜金御下賜の無上の光榮に浴し、又昨年十月には千里山學舍並に天六學舍に、畏れ多くも天皇皇后兩陛下の御眞影を奉戴し、引き續いては教育勅語の御下賜に預り、又今年の二月には、元師梨本宮殿下の「威德」なる御染筆を賜り、先日之が奉揭式を恩賜記念威德館に擧行致しました。これに依り本學教育の研學精神の基礎も彌々鞏固に確立致しました事を感謝いたします。昨年は豫科の校舍新築成り本年は天六學舍の增築が出來ましたが入學志望者も段々と增加致しまして、吾々局に當る者として常に學生々徒の薫育の粗漏なからん事を恐れてゐる次第であります。又圖書館の充實整頓は申す迄もなく、大學部校舍の改築に迫られてゐるこの際、大阪市民各位並びに諸官衙、殊に今日卒業せらるゝ方は勿論本學校諸氏の御後援を切望致す次第であります。

例に依りまして卒業生諸子に最後の希望を述べて送別の辭にかへます。本日無事に卒業なされた方の御兩親並にびに近親の方におかれても、さぞや御滿足の事とお慶び申上げます、それに引換へ諸種の事情により途中挫折せられた學生々徒には痛惜の情一入なるを感じます。今日諸君は卒業の榮譽を擔はれたものゝ前途は尙遠くして樂觀は許されません。甚だ潛越乍ら諸子は學識智識の方からみれば、未だ基礎的智識を備へたに過ぎないものであり、且又生噛りである事であります。それ故に諸子は其れに精煉を加へて行かねば、所詮この日進月歩の時代に落伍者たるを免れないのであります。私の自身の經驗を以てすれば、油斷なく絶えず此の基礎を補足する、而して今日の社會の要求する處のものは何であるかと申しますと、才子或は利巧者よりも、人物即ち人格の優れてゐる者を要求してゐるのでありますから、どうか卒業生諸子は人格の修養に留意して精進して戴きたい。人格の修養は死に至る迄永久的であります。而して修養の標準と致しましては今日私は極めて尊き御手本を戴いた事を申述べて諸子の注意を促したいと思ひます。

それは畏れ多くも今上陛下が未だ皇太子におはせられた際、杉浦重剛先生が七年に亘つて倫理の御進講になつた御講義草案が幸ひに公刊されましたのを拜讀致しましたのに三種の神器を智仁勇の三德に寓意せられまして説明せられてゐるのであります。即ちその三德とは知情意でありまして、此の知情意の三段に亘りて之が三作用の圓滿なる調和がなくては人格が出來ません。説そのものは斬新でないが、此の原則は古今を通じて不變の原則であります、私はこれを自分修養の無比のものと致しております。

教育勅語を奉讀して感激致します事は、その中に忝

けなくも君民一德、即ち「爾臣民と倶に其の德を一にせん事を庶幾ふ」と宣はせられてゐます。德を修める時に於ては上下一にしようと仰せられてゐるのでありまして、言葉をかへて申せば君主道德も國民道德も一體であると御示しになつてゐるのであります、私の研究する限りに於ては、君主道德が先づ發達して國民道德が發達したのであると考へます、又それは古今東西の史實に徵しても立證する事が出來ます、これを私は人格、德の最高標準と信じますが故に、諸子に於ても自分の三作用が、好く調和してゐるかどうか、冷靜に反省して實踐窮行する事を思念して戴きたいと思ひます。

諸子を送るに際し、衷心を披瀝し前途を祝福して式辭と致します。（文責記者）

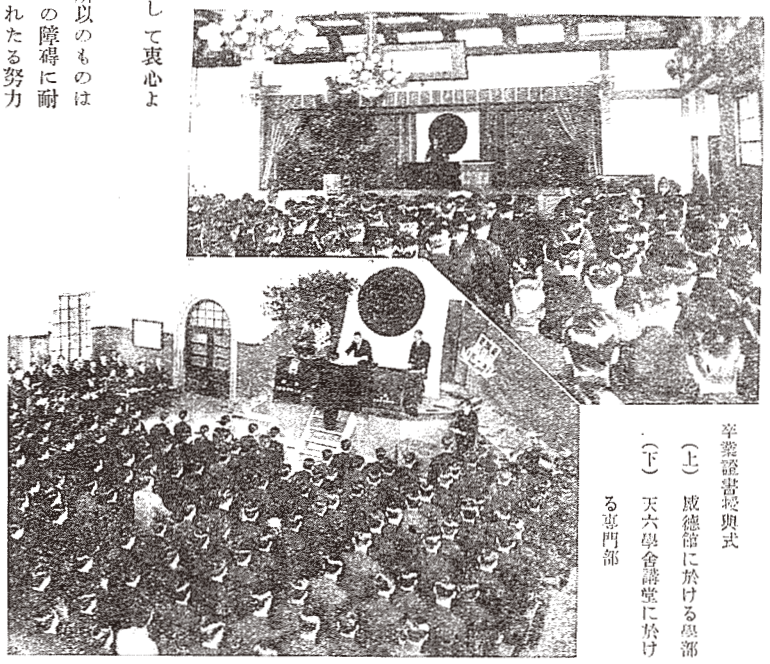
學部校友總代祝辭

校運隆々として發展し名聲年と共に向上しつゝある我等の母校學部第十三回卒業證書授與式に臨み畏くも式場高く御奉揭の梨本宮殿下御染筆の燦然たる輝きを仰ぎ卒業生諸子の光榮溢るゝ式場に於て校友を代表し祝辭を陳ぶるは洵に欣喜に堪へざる所にして衷心より慶祝の意を表す。

惟ふに諸子が今日の光榮を贏ち得たる所以のものは決して偶然にあらず。其過程に於ては幾多の障碍に耐へ困難を忍び夙夜黽勉孜々として研鑽せられたる努力の結晶に外ならず。

諸氏克く萬難を突破して目的の彼岸に到達せらる。歡喜何物か之に如かず。洵に慶賀に堪へざるなり。抑々も、我が國は滿洲事變を契機として國運彌々興隆して東亞安定の國是に邁進し又貿易の發展目覺ましく世界市場に突進しつゝあり、と雖も現下の內外狀勢は樂觀を許さず。此秋に方り諸氏は最高の學理を討究し高遠なる理想と熱烈なる意氣とを以て今將に實社會に進出せられんとす。諸氏の前途は多事多望にして活動の天地は廣大なり。而して國家が諸氏に期待する所も亦頗る大なるものあり。諸氏須らく內外の趨勢を認識し本學敎養の主旨を體して學理を實地に運用し至誠奉公以て國家社會の爲めに貢獻せられんことを希ふ。

茲に所懷を述べて祝辭とす。



卒業證書授與式

（上）威德館に於ける學部

（下）天六學舍講堂に於ける專門部

學部卒業生總代答辭

本日茲に生等の爲め、學部第十三回卒業證書授與の式典を擧行せらるゝに當り、多數朝野貴紳先輩諸彦の御賁臨を辱ふし、且つ學長閣下の御懇篤なる御訓辭と來賓諸賢の優渥なる御祝辭を賜り生等の光榮何物か之に如かん。

顧れば生等本學に入りてより茲に數星霜、天性不敏にして淺學菲才なるに拘らず、能く今日の榮譽を擔ひ社會に活動するの素地を得たるは、これ偏へに學德高き學長閣下並に諸先生各位の御懇切なる御指導、御熱心なる御薰陶と、光輝ある學風の薰化の賜にして、實に生等の感激惜く能はざる所なり。

本學の歷史將に半世紀に及び、其間幾多國家有爲の人材を輩出せり、生等幸にしてこの榮ある學窓に學ぶを得たり、今や業を卒へ懷しき學園を巢立ち、慈愛深き恩師の膝下を離れ、波濤渦卷く實社會に身を投じ、理想の彼岸に向つて邁進せんとす。

此秋に當り邦家の現狀を通觀するに、內外多事多端にして、國民の覺悟と奮起を要すること切なるものあり、殊に生等青年の双肩に掛る責務や重大なり、然るに生等資性愚鈍學未だ淺く經驗に乏しく、果してこの難局に處し能くその責務を果し得るや甚だ危惧の念なき能はず、只此上は一意學長閣下の御訓戒を遵守し、諸先生の不斷の御薰陶を體し、時流を追はず時弊に傲はず、質實剛健不撓不屈の精神を以て、夙夜精勵邦家

の爲めに微力を致し、本學の光輝を益々發揮し以て鴻恩の萬分の一に報ひ、本日の榮譽を曠しくせざらんことを期す。

希くは諸先生先輩諸賢、一層御指導御鞭撻を賜らんことを不肖潛越を顧みず卒業生一同に代り謹みて茲に蕪辭を述べ答辭とす。

專門部第一部卒業生總代答辭

本日茲に私達の爲めに專門部第一部第五回卒業證書授與の式典を擧行せらるゝに當り多數朝野貴紳先輩諸賢の御臨席を忝うし且つ學長閣下の御懇篤なる訓辭と來賓各位の御鄭重なる祝辭を賜りました事は私達一同の光榮此れに過ぐるは無く只々感激に堪へない次第であります。

顧みまするに私達が本學に入學しましてより早くも茲に三星霜其の間私達の菲才を以てして、尙能く今日の榮譽を擔ふを得ました事は此れ偏へに學長閣下並びに諸先生の不斷の御指導と御薫陶の賜と卒業生一同深く感謝する所であります。

惟ふに現下の社會情勢は內外共に、多事多端にして徒らに拱手傍觀すべき時に非らず國を擧げて奮起を要すべき非常時にして此の秋光輝ある本學を巢立つ私達の責任は誠に重且つ大なるを感ずる次第であります。然し乍ら私達の淺學菲才を以て能く此の重任に堪へ得るや否や頗る危惧の念なき能はず雖も私達只一意專心學長閣下並びに諸先生の日頃の御訓諭を本學の精神とを體し粉骨碎身國難の打開と國威の宣揚とに徹底を致し以て鴻恩の萬分の一に酬ゆる覺悟であります。

希くば學長閣下を始め諸先生並びに先輩諸賢の御指導御鞭撻の程切に御願ひ致します。今や懷しき母校を後にせんとするに際し萬感胸に迫り只々言ふ言葉すら失つてゐます。茲に謹んで諸先生先輩各位の御萬福を祈ると共に併せて母校の益々御隆昌を祈りつゝお別れする次第であります。

卒業生一同を代表して聊か感謝と覺悟とを述べて答辭と致します。

專門部第二部卒業生總代答辭

本日茲に生等專門部第二部卒業の爲め第四十九回卒業證書授與の式典を擧行せられ朝野多數の貴賓並に先輩諸賢の御來臨を辱うし且學長閣下の御懇篤而も慈愛溢るゝ訓辭來賓諸賢の御鄭重なる祝辭とを賜ふ。寛に生等の光榮之に過ぐるものなく唯々感謝感激に堪へず

顧れば生等本學に學ぶこと三星霜その間學長閣下並に諸先生の不斷の御薫陶眞摯御熱誠なる御指導と五十年の光輝ある學風の薫化とにより生等の菲才不敏を以つてして尙能く本日の榮譽を擔ふ、あゝ生等何を以つてか之に酬ひん。

惟ふに內外の時局は實に多事多端にして國歩頗る困難なり。此の難局を克服して新しき日本への飛躍祖宗建國の大理想の實現の爲躍進等今や我國は怒濤渦卷く奔流に棹さす。されば國民は徒に拱手傍觀するを許さず一層の覺悟と奮起とを要する事甚だ切なるものあり特に生等青年の責務や九鼎大呂より尙重し。生等資性愚鈍淺學菲才にして能くこの重責を全うし得るや憂惧の念なき能はずと雖も唯一意專心學長閣下並に諸先生の御訓誨を體し身を修め業を勵み粉骨碎身國難の打開と國威宣揚の爲め夙夜精勵努力を致し國家社會に貢獻すると共に本學の名聲を一層發揚し以つて鴻恩の萬分の一に酬ひ本日の榮譽に背かざらんことを期す。

希くば學長閣下を始め諸先生並に先輩諸賢今後も尙一層の御指導御鞭撻賜はらんことを、茲に卒業生一同に代り謹みて蕪辭を述べ答辭とす。

天六學舍增築工事竣成

天六學舍三階屋上增築工事は昨年九月より大林組の手にて施工中のところ此程全く成り、四月一日その引繼を了した。新館は大教室二、豫備室一にて延二二〇坪、工費約五萬圓、窓廣く白堊の明朗なる教室にして新學年より教室として使用することになつた。

人事異動

四月一日付

學長就任

依願退職

法文學部長ヲ命ズ

經商學部長ヲ命ズ

任期滿了ニ付法文學部長ヲ解ク　法文學部長　神戸正雄

任期滿了ニ付經商學部長ヲ解ク　經商學部長　吉田一枝

講師囑託（學部經原擔任）　經濟學博士　古屋美貞

講師囑託（豫科國史擔任）　魚澄惣五郎

講師囑託（專門部民訴擔任）　小山慶作

講師囑託（專門部財政擔任）　三谷道麿

講師辭任　箕田正一

學長　法學博士　仁保龜松

法學博士　野村次夫

教授　瀧澤喜子雄

教授　新町德之

新舊學長歡送迎會

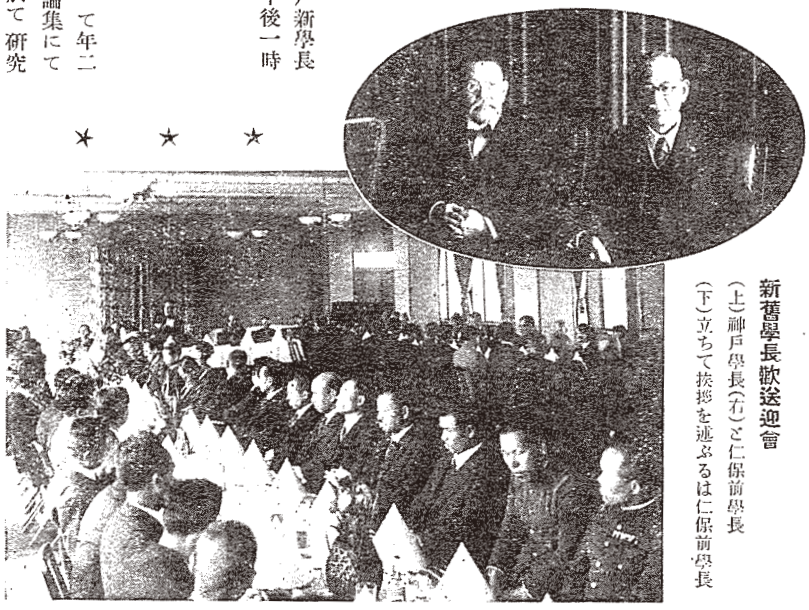
昭和三年學長就任以來一意經營並に教學の刷新に盡瘁せられ本學今日の基礎を確立せられた仁保學長は三月末を期して辭任せられ、後任として本學講師京大教授神戸正雄博士を迎ふることゝなり、その新舊學長歡送迎會を四月一日午前十一時より天六學舎本部集會室に於て開催した。主賓仁保、神戸新舊學長初め喜多村玉木、吉田、増山の各理事並に教職員百二十餘名出席し、喜多村理事は本學を代表して仁保學長の功績を頌し多年の勞を犒ひて滿腔の謝意を表し、後任として學界の重鎮にして學德高き神戸博士を迎ふる事を得たるは本學の光榮且幸福なる喜びを述べ本學の前途を祝して一同乾杯した。次いで仁保學長は過去を回顧して所感並に希望と、後任として神戸博士を得たる喜びを述べられ、次に神戸博士は學長就任の經緯並に將來の抱負を披瀝して之が實現には教職員の一同一致協力を乞ふとの挨拶あり、最後に村上教授は教職員を代表して仁保學長に謝辭を呈し、神戸新學長歡迎の辭を述べて本學發展の祝福譜を展開し午後一時閉宴した。

★　★　★

研究論集組織變更

法政、經商、文哲の三論集發行

從來研究論集は本學各研究部門綜合論集として年二回刊行し昨年十一月第六號を重ねたるも綜合論集にては幾多不便ありたるを以て昨年編輯委員會に於て研究の上去る三月六日關西大學學會に於て會則を變更し、學會を第一部法政、第二部經商、第三部文哲の三部に分ち、各部獨立に『法律政治編』、『經濟商業編』、『文學哲學編』なる論集を毎年一回十一月上旬に發行する事となつた。而して在學生に對する頒布方法は別に之を定め各部科所屬編一冊を配布する。



新舊學長歡送迎會
(上)神戸學長(右)と仁保前學長
(下)立ちて挨拶を述ぶるは仁保前學長

各部所屬評議員並に本年度常務委員

第一部（法律、政治）

安藤　光　岩崎　卯一　大山　彦一　川上　敬遙
木村　健助　中谷　敬壽　西村　信雄　野村　次夫
本莊鐵次郎　柳瀨　兼助　吉田　一枝　和田　豐二
〔常務委員〕岩崎　卯一　野村　次夫　和田　豐二

第二部（經濟、商業）

赤羽豐治郎　磯部　喜一　加藤金次郎　賀屋　俊雄
河村　宜介　瀧澤喜子雄　中川庸太郎　中村長之助
西村勝太郎　古川　武　正井　敬次　水谷　揆一
森川　太郎　矢口孝次郎
〔常務委員〕磯部　喜一　賀屋　俊雄　森川　太郎

第三部（文學、哲學）

飯田　正一　板倉　鞆音　内多　精一　大小島眞二
賀來　俊一　片山　正直　河村　信一　新町　德之
田邊　清市　武内　省三　中村鄧次郎　八鳥　治一
藤澤章次郎　堀　正人　三枝樹正道　村上　喜貞
山田松太郎
〔常務委員〕賀來　俊一　大小島眞二　村上　喜貞

がくほう抄

大山教授　三月十五日BKより「滿洲の宗教共同社會と秘密結社」の題にて放送講演をなした。

森川教授　專門部二部辯論部員を引率し、三月卅一日高知（城東中學講堂）、四月一日高松（讃岐會館）に遊説二日歸學

古川教授　專門部一部辯論部員を引率し三月十三日より姫路、岡山に遊説二十六日歸學

下村宏氏（評議員）東京市大森區田園調布三丁目二二ノ二（電田園調布三四〇〇）に轉居
吉田敎授　五月七日より豐能郡豐津村垂水一一一（豐津停留所東北一丁丘ノ上）に轉居
小野木常講師　京都市上京區大將軍一條町九に轉居
內藤耕次郎講師　京都市左京區北白川久保田町三に轉居
佐伯三郎講師　豐中市櫻塚三三に轉居
三木治講師　住吉區山阪西ノ町一丁目二六に轉居
グレン・ショウ講師　神戸市灘區大石長峯山四八に轉居
新任講師住所
古屋美貞講師　西宮市外甲東村神呪町田
魚澄惣五郎講師　兵庫縣武庫郡本山村森
小山慶作講師　豐中市櫻塚三六四
三谷道麿講師　京都市上京區紫野柳町一一

昭和十二年三月卒業及豫科修了成績優等並に佳良賞受領者

優良	法文學部法律學科		上田廣藏
同	經商學部經濟學科		村上秀吉
同	同	商業學科	山中一夫
同	專門部第二部商業學科		板倉光次
同	同	文學科國語漢文科	岡本義信
同	同	同　英語科	政友隆三
佳良	法文學部法律學科		辻　菊雄
同	同		內山勇
同	同	政治學科	原田三郎
同	同		荻阪操
同	同	文學科哲學專攻科	豐島孝次
同	經商學部商業學科		多田米藏
同	同		三口百一郎
同	專門部第一部商業學科		岩崎義二
同	同		植村覺一
同	同		金昌健
同	同	第二部法律學科	佐藤立
同	同		新名馨
同	同		寺居大士
同	同	商業學科	福田德治
同	同	文學科英語科	村田一男
同	同		是恒達見
同	同		岡井泰雄
同	同		奥村久美
同	同		眞城桂一郎
同	同		谷正春
優良	第二大學豫科		荒川彌一郎
佳良	第一大學豫科		辻井寛
同	同		高田省一
同	第二大學豫科		下田資郎
同	同		小川眞澄

進級成績優等賞狀授與者（○印特待生）

專門部第一部
（商二）高村義光・秋田谷昇
（法一）青木文雄　○弓場晴男　小松邦男
（經一）河田一
（商一）久保田弘　大原伊兵衛　松岡龍男
專門部第二部
（法二）本岡貞次　和田鶴藏　生垣岩男
（商二）近藤薫　吉本夏夫
（國二）○津田正男　白木眞一
（英二）○金森末太郎　○緒方俊介　輕澤庄次郎
木村博吉
（法一）井上成章　川見公直
（商一）中桐保　時水保雄　芝義次
甲田安義
（國一）○北村學
（英一）三宅日出夫
第一大學豫科特待生
二年　北川行雄　二年　河村勝久
第二大學豫科特待生
二年　中瀨正雄　二年　田中利一

卒業生送別會

學部　三月二十日豫科講堂にて三時半より開催す、學長の送別の辭終つて開宴、學歌を齊唱し關西大學萬歳を三唱、引き續き角田學士會理事長の挨拶あり、最後に千里山學士會の萬歳を三唱して散會す。

專門部第一部　三月二十日天六學舍二十一教室にて開催された、學長の送別の辭ありて、武田專門部主事の音頭にて關西大學萬歳を三唱し散會した。

專門部第二部　三月二十日天六學舍三十一・三十二教室にて開催す、學長の送別の辭ありたる後、岩崎教授、武田專門部主事、校友辯護士本田武藏氏、古川教授の挨拶ありて、中村良之助教授のリーダーにて「螢の光、學歌」齊唱目出度散會す。

本學年度學科目擔任表

法文學部

法律學科

社會學、社會政策	岩崎卯一
經濟政策概論	磯部喜一
東洋倫理學	石濱純太郎
獨語	板倉鞆音
法理學	仁保龜松
債權總論、獨法	西村信雄
英法、債權各論、信託法	本莊鐵次郎
佛語	德尾俊彥
英法	和田豐二
佛語	賀來俊一
國際私法	川上太郎
財政學	神戶正雄
哲學	武內省三
英語	高田彬
經濟學特種問題	高田保馬
海商法	武田藏之助
手形法	竹田省
英語	田邊信太郎
西洋倫理學	龍野健次郎
國際公法(戰時)	恒藤恭
行政法總論、行政法各論、獨法	中谷敬壽
會社法	烏賀陽然良
獨法、商行爲	野村次夫
佛法	柳瀨兼助
民事訴訟法(判決、强制執行)	山田正三
法制史	牧健二
經濟原論	古屋美貞
民法總則	近藤英吉
英法	安藤光
獨語	赤羽豐治郎
民事訴訟法、(判決)、破產法	齋藤常三郎
憲法、行政法各論	佐々木惣一
刑事訴訟法	佐伯千仞
佛法、親族法、相續法	木村健助
刑法各論、刑法總論	宮本英脩
國際公法(平時)	末廣重雄
物權法	末川博

政治學科

社會學、社會政策、外國政治書研究	岩崎卯一
工業政策	磯部喜一
政治史	池田榮
東洋倫理學	石濱純太郎
獨語	板倉鞆音
法理學	仁保龜松
刑法總論、債權總論	西村信雄
統計學	蜷川虎三
債權各論、信託法	本莊鐵次郎
佛語	德尾俊彥
外國政治書研究	大山彥一
佛語	賀來俊一
國際私法	川上太郎
財政學	神戶正雄
政治學史	吉田一枝
哲學	武內省三
簿記(原理、商業)	瀧澤喜子雄
英語	高田彬
經濟學特種問題	高田保馬
海商法	武田藏之助
手形法	竹田省
經濟史、英語	田邊信太郎
西洋倫理學	龍野健次郎
國際公法(戰時)	恒藤恭
行政法總論、行政法各論、地方自治	中谷敬壽
會社法	烏賀陽然良
商行爲、商法總則	野村次夫
政治學	黑田覺
法制史	牧健二
經濟原論	古屋美貞
民法總則	近藤英吉
獨語、農業政策	赤羽豐治郎
商業政策	作田莊一
憲法、行政法各論	佐々木惣一
親族法、相續法	木村健助
刑法總論、刑法各論	宮本英脩
國際公法(平時)、外交史	末廣重雄
物權法	末川博

文學科哲學專攻科

社會學、社會政策	岩崎卯一
政治史	池田榮
支那文學	石濱純太郎
心理學、心理特殊問題	岩井勝次郎
古典語	服部英次郎
文學概論	堀正人
社會學特殊問題、倫理演習	大山彥一
西哲思想史、哲學史特殊問題、宗教學特殊問題	片山正直
財政學	神戶正雄
哲學、論理學、論理特殊問題	武內省三
經濟學特種問題	高田保馬
東洋倫理學	高瀨武次郎
倫理學、西洋倫理學	龍野健次郎
美學	辻部政太郎
行政法總論	中谷敬壽
政治學	黑田覺
文明史	矢口孝次郎
印度哲學、宗教學	前田聽瑞
獨語、哲學演習	藤本進治
哲學特殊問題	高山岩男
憲法	佐々木惣一
國文學	佐伯梅友
教育學、教授法	三枝樹正道
東洋哲學史、東洋哲學特殊問題	新町德之
哲學講讀、哲學演習、認識論、西洋美術史	菅守常

文學科英文學專攻科

支那文學　石濱純太郎
獨　語　板倉鞆音
言語學　江　實
心理學　岩井勝次郎
ラテン語　服部英次郎
文學概論、英文學　堀　正人
英文學　細江逸記
佛　語　德尾俊彥
西哲思想史　賀來俊一
哲　學　片山正直
英文學　武內省三
美　學　瀧川規一
英文學　辻部政太郎
英文學　村上喜貞
英語學　內多精一
文明史　グレン・ショウ
宗教學　矢口孝次郎
獨　語　前田聽瑞
國文學　赤羽豐治郎
教育學、教授法　佐伯梅友
西洋美術史　三枝樹正道
　　菅　守常

經商學部

經濟學科

社會學、社會政策　岩崎卯一
經濟政策概論、工業政策、英語
經濟書研究、演習(經濟政策)　磯部喜一
政治史　池田榮

東洋倫理學　石濱純太郎
經濟學史　石川興二
獨　語　板倉鞆音
商行爲　原田鹿太郎
債權總論　西村信雄
商業數學　蜷川虎三
統計學　本莊鐵次郎
民法總則、債權各論、信託法　德尾俊彥
佛　語　和田信夫
外國經濟事情　賀來俊一
會計學　加藤金次郎
國際公法(平時、戰時)　川上敬逸
財政學　神戶正雄
英語經濟書研究、交通經濟論　河村宣介
國際私法　川上太郎
憲法、行政法總論、行政法各論、演習(社會問題及社會立法)政治學史　吉田一枝
簿記(原理、商業)　瀧澤喜子雄
哲　學　武內省三
經濟史、演習(經濟商業史)　田邊信太郎
西洋倫理學　龍野健次郎
經濟學特種問題　高田保馬
損害保險論　瀧谷善一
手形法　竹田省
景氣變動論　中川庸太郎
經濟地理　中村良之助
親族法、相續法　中島玉吉
經營經濟論　村本福松
商法總則、會社法　烏賀陽然良
倉庫論　野村次夫
保險(總論、生命)保險政策　野口正造
政治學　黑田覺
日本經濟史　黑正巖
植民政策　山本美越乃
貨幣論、金融論、外國爲替
演習(銀行及金融)　正井敬次
取引所及市場論　增山忠次
經濟學史、演習(經濟學史)　古川武
經濟原論　古屋美貞
海商法　安藤光
獨語、農業政策　赤羽豐治郎
破產法　齋藤常三郎
商業政策、國際經濟論　作田莊一
刑法總論、刑法各論　宮本英脩
外國經濟事情　下田將美
英語經濟書研究　森川太郎
銀行論、演習(銀行及金融)　末川博
物權法　末廣重雄
外交史　須藤文吉
簿記(銀行、工業及原價計算)　陶山誠太郎
會計、監査

商業學科

社會學、社會政策　岩崎卯一
經濟政策概論、工業政策、
演習(經濟政策)　磯部喜一
東洋倫理學　石濱純太郎
獨　語　板倉鞆音
商行爲　原田鹿太郎
債權總論　西村信雄
商業數學　西村勝太郎
統計學　蜷川虎三
民法總則、債權各論、信託法　本莊鐵次郎
佛　語　德尾俊彥
外國經濟事情　和田信夫
佛　語　賀來俊一
商業英語、貿易實務論、英語
經濟書研究　賀屋俊雄
商工經營論、會計學、演習(會
計學)　加藤金次郎
交通經濟論　河村宣介
財政學　神戶正雄
國際公法(平時、戰時)　川上敬逸
國際私法　川上太郎
憲法、行政法總論、行政法各論
演習(社會問題及社會立法)　吉田一枝
商學概論、簿記(原理、商業)
英語經濟書研究　瀧澤喜子雄
商業史、經濟史、演習(經濟
商業史)　田邊信太郎
損害保險論　瀧谷善一
經濟學特種問題　高田保馬
手形法　竹田省
西洋倫理學　龍野健次郎
景氣變動論　中川庸太郎
經濟地理　中村良之助
親族法、相續法　中島玉吉
經營經濟論　村本福松
商法總則、會社法　烏賀陽然良
倉庫論　野村次夫
保險論(總論、生命)保險政策　野口正造
日本經濟史　黑正巖
英語經濟書研究　矢口孝次郎
植民政策　山本美越乃
商品學　山崎直樹

貨幣論、金融論、外國爲替演習（銀行及金融）、財政學　正井敬次
取引所及市場論　増山忠次
經濟原論　古屋美貞
海商法　安藤光
獨語、農業政策　赤羽豐治郎
破産法　齋藤常三郎
商業政策、國際經濟論　作田莊一
商業英語　水谷揆一
刑法總論、刑法各論　宮本英脩
外國經濟事情　下田將美
銀行論、演習（銀行及金融）　森川太郎
物權法　末川博
簿記（銀行、工業及原價計算）　須藤文吉
會計監査　陶山誠太郎

大學豫科

第一大學豫科

國語　飯田正一
獨語　板倉鞆音
英語　入鳥治一
西洋史　西井克巳
英語　堀正人
英語　富山四郎
英語　豐岡佐一郎
論理、獨語　大小島眞二
英語　小川忠藏
佛語　大坪一
法制　和田豐二
數學、自然科學　河村信一
經濟　河村宜介
佛語　賀來俊一
英語　加藤金次郎
哲學　田邊清市
獨語　武内省三
地理　中村鄧次郎
心理　中村良之助
自然科學　内藤耕次郎
日本史　上島勝夫
英語　魚澄惣五郎
英語　グレン・ショウ
英語　山田松太郎
日本史　矢口孝次郎
東洋史　福尾猛市郎
漢文　藤枝晃
修身　藤澤章次郎
佛語　三枝樹正道
英語　三木治
法制　杉平顕智

第二大學豫科

國語　飯田正一
獨語　板倉鞆音
英語　入鳥治一
英語　堀正人
獨語　木庄實
佛語　德尾俊彦
論理、獨語　大小島眞二
英語　小川忠藏
佛語　大坪一
數學、自然科學　河村信一
經濟　河村宜介
英語　賀屋俊雄
佛語　賀來俊一
英學　田邊清市
哲學　武内省三
獨語　中村鄧次郎
地理　中村良之助
心理　内藤耕次郎
英語　村上喜貞
自然科學　上島勝夫
獨語　上道通夫
日本史　魚澄惣五郎
英語　グレン・ショウ
英語　山田松太郎
英語　安田恭平
漢文　藤澤章次郎
日本史　福尾猛市郎
法制　安藤光
修身　三枝樹正道
英語　水谷揆一
佛語　三木治
國語　新町德之
英語　杉平顕智

專門部第一部

法律學科

社會學　岩崎卯一
債權總論、事務管理、契約　西村信雄
心理學　西村嘉三郎
佛語　德尾俊彦
商行爲　大橋光雄
民事訴訟法　小野木常
支那語　臭平定世
法學通論、民法總論　和田豐二
倫理學、哲學、英語　片山正直
國際公法、英語　川上敬逸
財政學　柏井象雄
憲法　吉田一枝
英語　吉川貫二
保險法　武田藏之助
行政總論、行政各論　中谷敬壽
民事訴訟法　中田淳一
會社法　鳥賀陽然良
刑法各論、刑事訴訟法　植田重正
商法總則　野村次夫
民事訴訟法　山田正三
論理學　柳延胤
親族法、相續法、國際私法　柳瀬兼助
經濟原論　古川武
獨語　赤羽豐治郎
海商法、手形法　安藤光
刑法總論　佐伯千仞
破産法　齋藤常三郎
物權法　柚木馨
英語　水谷揆一
英語　杉平顕智

商業學科

社會學、社會政策　岩崎卯一
經濟政策、工業政策　磯部喜一
債權　入江眞太郎
心理學　西村嘉三郎
民法總則　本莊鐵次郎
佛語　德尾俊彥
政治學　大山彥一
英語　小川忠藏
支那語　奥平定世
倫理學、哲學　片山正直
英語　河村宜介
財政學　柏井象雄
憲法　吉田一枝
英語　吉川貫二
商業通論、商業政策　瀧澤喜子雄
保險學　瀧谷善一
經濟地理、交通論、英語　中村良之助
海外經濟事情　中川庸太郎
商法　國歲胤臣
經濟史、特殊經濟史、英語　矢口孝次郎
論理學　柳延胤
農植政策　山本美越乃
外國貿易、外國爲替　正井敬次
取引所論　增山忠次
經濟原論、經濟學史　古川武
獨語　赤羽豐治郎
海商法、手形法　安藤光
物權法　坂本憲三
破產法　齋藤常三郎

統計學　菊田太郎
英語　水谷揆一
銀行及金融論、英語　森川太郎

商業學科

經濟政策、工業政策　磯部喜一
債權　入江眞太郎
商業簿記、英文簿記、商業數學、商業英語、會計學　西村勝太郎
心理學　西村嘉三郎
民法總則　本莊鐵次郎
佛語　德尾俊彥
支那語　奥平定世
倫理學、哲學　片山正直
商業簿記　加藤金次郎
海上保險、英語　河村宜介
商業英語　賀屋俊雄
商品學　河村信一
財政學　柏井象雄
英語　吉川貫二
商業通論、商業歷史、商業政策　瀧澤喜子雄
保險論　瀧谷善一
商業地理、交通論　中村良之助
海外經濟事情、商業英語、倉庫稅關論、英語　中川庸太郎
商法　野村次夫
論理學　國歲胤臣
英語　柳延胤
外國貿易、外國爲替　矢口孝次郎
取引所論　正井敬次
經濟原論、英語　增山忠次
獨語　古川武
手形法　赤羽豐治郎
物權　安藤光
破產法　坂本憲三
英語　齋藤常三郎
銀行及金融論　水谷揆一
銀行簿記、工業簿記、原價計算　森川太郎
須藤文吉

專門部第一部

法律學科

社會學　岩崎卯一
物權法　入江眞太郎
民法總則　石田文治郎
論理學　井上隆證
會社法、商行爲法　原田鹿太郎
心理學　西村嘉三郎
刑事訴訟法　富田仲次郎
法學通論　和田豐二
行政各論　渡邊宗太郎
國際公法　川上敬逸
佛語　賀來俊一
憲法　吉田一枝
保險法　武田藏之助
英語　田邊清市
手形法　田中保太郎
倫理學　龍野健次郎
行政總論　中谷敬壽
英語　村上喜貞
商法總則　野村次夫
民事訴訟法　野中徹
國際私法　柳瀨兼助
刑法各論　山田卯三郎
經濟原論　古川武
民事訴訟法　小山慶作
海商法　安藤光
獨語　赤羽豐治郎
債權總論、事務管理　坂本憲三
破產法　齋藤常三郎
親族法、相續法　木村健助
刑法總論　宮本英脩
財政學　森下政一
民事訴訟法　關豐馬
契約論　末川博
哲學　菅守常
英語　鈴木富太郎

經濟學科

社會學、社會政策　岩崎卯一
經濟政策、工業政策　磯部喜一
倫理學　井上隆證
經濟原論　堀經夫
英語　富山四郎
債權法　茶谷勇吉
政治學　大山彥一
心理學　大小島眞二
獨語　奥宮精一
民法總則　和田豐二
商法　神宅賀壽惠
英語　川上敬逸
佛語　賀來俊一
憲法　吉田一枝

交通論	吉川貫二
商業政策	瀧澤喜子雄
手形法	田中保太郎
保險法	瀧谷善一
倫理學	龍野健次郎
商業通論	高田彬
經濟地理	中村良之助
海外經濟事情、英語	中川庸太郎
英語	內多精一
特殊經濟史	宇治伊之助
經濟史	矢口孝次郎
外國貿易、外國爲替	正井敬次
取引所論	增山忠次
經濟學史、英語	古川武
農植政策	赤羽豊治郎
海商法	安藤光
物權法	坂本憲三
破産法	齋藤常三郎
統計學	菊田太郎
財政學	三谷道麿
銀行及金融論、英語	森川太郎
哲學	菅守常

商業學科

經濟政策、工業政策	破部喜一
論理學	井上隆證
商業數學、商業英語	西村勝太郎
心理學	西村嘉三郎
英語	富山四郎
債權法	茶谷勇吉
獨語	奥宮精一
民法總則	和田豊二
商業簿記	加藤金次郎
海上保險	河村宜介
商品學	河村信一
佛語	賀來俊一
物權法	神戸三郎
商法	神宅賀壽惠
交通論	吉川貫二
商業通論、商業政策	瀧澤喜子雄
手形法	田中保太郎
保險法	瀧谷善一
商業英語	高田彬
倫論學	龍野健次郎
商業地理、英語	中村良之助
海外經濟事情、商業英語、英語	中川庸太郎
英語	村上喜貞
倉庫秘閉論	內多精一
外國貿易、外國爲替	野村次夫
取引所論	正井敬次
經濟原論	增山忠次
經濟政策	丸谷喜市
破産法	赤羽豊治郎
商業歷史	齋藤常三郎
會計學、英文簿記	佐伯三郎
財政學	木村禎橘
銀行及金融論、英語	三谷道麿
哲學	森川太郎
銀行簿記、工業簿記、原價計算	菅守常
	須藤文吉

國語漢文專攻科

近世文學、古今集	飯田正一
國民道德、實踐倫理、東洋史	一海景宥
論理學	井上隆證
書經、日本漢學史	石濱純太郎
言語學	江實
支那哲學史	西田長左衛門
英語	富山四郎
左傳、莊子、十八史略	土橋文夫
孟子、漢文新鈔、漢作文	茶谷忠治
心理學	大小島眞二
法學通論	和田豊二
經濟原論	河村宜介
文學概論	金子又兵衛
法制史、憲法	吉田一枝
論語、時文、支那文學史、大學中庸、唐詩選、支那文學史	高橋盛孝
國文法、荀漢新鈔	田中健三
英語	辻部政太郎
中古文學	山脇毅
國史、西洋史	山川信夫
近古文學	安川安太郎
詩經、十八史略、唐詩	藤澤章次郎
有職故實、近古文學	江馬務
教育概論、倫理學、教育學	三枝樹正道
教授法	
國學、國語學、國語學史	新町德之
國文學史	
源氏物語、萬葉集	平林治德
哲學	菅守常
上代文學	鈴木周作

英語專攻科

國語	飯田正一
國民道德、實踐倫理、東洋史	一海景宥
論理學	井上隆證
言語學	江所勇
英語	富山四郎
英語	豊岡佐一郎
佛語	德尾俊彦
心理學	大小島眞二
文學概論	大坪一
英語、英作文	小川忠藏
獨語	奥宮精一
法學通論	和田豊二
經濟原論	河村宜介
法制史、憲法	吉田一枝
漢文	田中健三
英語	田邊清市
英語	村上喜貞
英語	內多精一
英語	黑田正利
英語、英文法	山田松太郎
英語、英文學史	安田恭平
國史、西洋史	山川信夫
國語、會話	安川安太郎
教育概論、倫理學、教育學	アール・テイ・フインチヤー
教授法	三枝樹正道
發音學、英語史	杉平顕智
哲學、獨語	菅守常
英作文	鈴木富太郎
國語	鈴木周作

校友

校友總會

昭和十一年度校友總會は三月二十日卒業式當日午後五時より天六學舍本部大集會室に於て開催、仁保會長の挨拶ありて校友會常議員の改選に移る。恒例に依り會長指名にて左記の諸氏常議員に當選した。

昭和十二年度校友會常議員（イロハ順）

糸島實太郎　岩崎　卯一　戸波　次郎
織田佐代治　大月　伸　遠部逸太郎
渡邊　博　河村　宜介　武田藏之助
内藤　正剛　中井三之助　中村　忠夫
松本標四郎、古川　武　藤本　峯雄
近藤　孝　南　清　三島　律夫
樋口哲四郎　關　豐馬

大連支部

第十一回秀麗會の記　二月二十日午後六時より海務協會に於て開催す、當夜の來會者は數こそ尠かつたが、滿洲には明治時代からゐると云ふ村川氏と、昭九千里山出身の早川氏が、實にニコヤカなお顔を見せられたので會場は彌上にも愉快な空氣が溢れた。

當夜の話は明治時代から今日迄の大連の盛衰が中心となり、凡有る方面からの追憶が盡ることなく、遂に十時を過ぐるを知らず、例の如く學歌を高唱して十時二十分散會す。

（出席者）高濱直一、飯田昇、村川保藏、秀島全治國友則親、光井章雄、早川源四郎、平井三郎

川邊支部

去る二月、前途洋々の希望を持して誕生した兵庫縣川邊支部は、溌氣滿々たる本年度新卒業生二十一名を加へて、爰に會員數、百有七名を算するに至り欣喜雀躍今後の基礎を如何にして確立し、事業を遂行するかに大いに惠念してゐる、就ては其の發展の方策上「內規として」支部全區を四分區制（南區、中區、北東區、北西區）とし、區在住或は最寄幹事が主として當該區會務を鞅掌し、確實性とスピード化をモットーにして支部事務所に通達これを援助することゝ決定

受持區　役員

（南區）淺沼　淳　佐伯　三郎　山崎　正一
（中區）佐藤　清　井上　文夫　飯田　幸一
安井　章吾　三原新三郎
（北東區）野原　稔　蓮井　久雄　梅垣　貞一
（北西區）上田　竹松　杉本　信雄　池田幸太郎
富川竹治郎

岡山支部消息

永らく校友會岡山支部長として、母校の爲奮闘せられし横田長次郎君（明二五法）は去る二月二十八日逝去せられたり、謹んで哀悼の意を表す。

神崎商事會社代表社員として活躍中の神崎傳次郎君は今般岡山商工會議所議員に當選す。

動靜

北本常三郎君（明三七　法）札幌控訴院部長判事より鳥取地方裁判所長に轉任

神崎傳次郎君（明四二　專法）岡山商工會議所議員に當選

山田　太熊君（明四五　專法）滿洲生命保險會社哈爾賓支部長、住所哈爾賓特別市地段街五一、松島ビル

平賀　松男君（大三　專法）岡山縣津山驛長より兵庫縣加古川驛長に轉任

金子金次郎君（大八　專法）大阪市秘書課秘書係長より秘書課長に轉任

長友　尙一君（大一二　專商）任警部補大阪府特高課より芦原署へ轉勤

曾我部軍治君（大一三專法　昭四大法）警部補、十三橋署より大和田署へ轉勤

（窓蛙諏訪）

寺尾賢三郎君（大一三　專經）岡山縣西大寺町會議員

古市賢太郎君（大一四　專法）香川縣光畫研究會長

山川　兵一君（大一五專商　昭六專法）警部補、戎署より池田署司法主任に轉任

江崎　英夫君（大一五　專經）高島屋營業企畫部、住所住吉區田邊東之町五丁目一六

福永　泰章君（昭二　專法）兵庫縣武庫郡鳴尾東小學校住所武庫郡魚崎町上松原七二九

藤田　肇君（昭二　專法）警部補、港水上署より大阪府警務課へ轉勤

西川　英三君（昭三　專商）三菱商事會社大阪支店（南區安堂寺橋通三丁目一五）

多田　政吉君（昭四　専法）　丸龜信用組合（丸龜市富屋町）
中村敬次郎君（昭五　大法）　北摂乘合自動車會社支配人（舊姓山東）
山本　賢治君（昭五　大法）　清文社（北區梅ヶ枝町）住所東成區大今里町四五九
植島　博君（昭六　専法）　警部補、大阪府警務課より鶴橋署へ轉勤
長谷川千秋君（昭六　専法）　大阪市產業部
長谷川　隆君（昭六　専經）　大德公司哈爾賓分公司管理係、住所哈爾賓馬家溝國慶街六號
白川　忠勝君（昭七　専經）　廣海軍共濟組合購買所、住所廣島縣賀茂郡廣村大新開　鐘築方
國友　則親君（昭八　大法）　大連機械製作所を退職歸省
石原　宗彦君（昭八専一商）　西長橡皮工場（天津日本租界淡路街二四）
多田　米藏君（昭九専一商　昭二二大經）　東京火災保險會社、住所東京市牛込區山吹町一九八、菅野方
伊原　利秋君（昭九専二商）　伊原商店（西淀川區海老江上二丁目）住所尼崎市難波中通八丁目二〇七
小堀　欣二君（昭一〇専一商）　太平火災海上保險會社京城駐在所、住所京城府南大門通三丁目一〇六
福田　寧君（昭一〇専一經）　三井物產埠頭事務所、住所大連市長生街一五二、植村重一方
植村　藤市君（昭一〇専一經）　三菱海上保險神戸支店、住所神戸市灘區記田町一丁目六、米田方
木下　直三君（昭一〇専一經）　大阪市教育部經理課
井上　明美君（昭一〇専一經）　德島市土木課、住所德島市南仲之町四丁目、天野方
森下　磐君（昭一〇専二法）　警部補、島之内署より大阪府警務課へ轉勤
中村　寛一君（昭一〇専二法）　任警部補、島之内署より戎署へ轉勤
高原　盛男君（昭一〇専二法）　警部補、岸和田署より大阪府情報課へ轉勤
清野　靜一君（昭一〇専二法）　健康保險醫報社編輯部（東京市神田區鍛冶町二丁目二）
荒川　少意君（昭一一大法）　八日市飛行第三聯隊操縱幹部候補生
中谷　顯一君（昭一一専一商）　步兵第八聯隊第十二中隊五班
增野　良員君（昭一二専一商）　草川商事會社（東區北濱二丁目）住所北河内郡三郷町高瀨舊世木二六九
植田浩太郎君（昭一二専一商）　上組合資會社輸入部（神戸市葺合區濱邊通四丁目）

移動

森塚　圭城君（明三八専法）　兵庫縣武庫郡精道村芦屋芦原一一三六
頓戸　勇君（大一三専商）　北河内郡守口町寺内一九四
前川信之助君（大一四専法）　此花區大開町二丁目二五
高坂　春三君（昭六　専國）　東淀川區十三東之町三丁目三二
豐田　一夫君（昭七　専法）　東區南新町一丁目二三
西峰　信一君（昭七　専法）　奈良市雜司町六七、辻井方
西本　營兒君（昭八　大商）　大連市能登町六九、神戸屋
早川源四郎君（昭九　大法）　大連市敷島町六七、澤ビル三階
（舊姓福丸）田村繼太郎君（昭九　大法）　福岡縣田川郡伊田町夏吉八二一
（舊姓梶原）多田　時造君（昭一〇専一法）　尼崎市中在家町二丁目二六三
佐藤　末男君（昭一〇専國）　港區壽町三丁目四五
藤村　成明君（昭一二専一法）　神戸市須磨區月見山町二丁目三
橋本　三郎君（昭一二専一商）　奈良縣高市郡新澤村川西
川上　獻三君（昭一二専二法）　三島郡千里村千里山九三森精造方
玉井　肇君（昭一二専二經）　西成區鶴見橋通六丁目六

逝去

横田長次郎君（明二五　法）　昭和十二年二月二十八日
野島藤次郎君（明三〇　法）　昭和十二年四月五日
堀田　馨一君（明四三専法）　總選擧に和歌山縣第二區より社會大衆黨候補として出馬、言論戰のトップを切つて遊說の爲、四月八日午後七時同縣東牟婁郡北山村竹原小學校に赴く途中、鷲巢斷崖より轉落危禍に遭ひ逝去す、同君は辯護士並びに社大黨和歌山縣支部聯合會長として活躍中であつた。
戸波　次郎君（大三　専法）　去る三月以來電氣局病院に入院加療中の處藥石効なく四月八日遂に永眠せられた。
同君は大阪市電氣局病院事務長として公務多忙の傍ら永く校友會常議員、支部幹事同窓會大三會常任幹事として其他母校並に校友會の爲に盡力せらるゝ處多く、今同君を失ふ事は洵に痛惜に堪へない。九日午後五時より阿部野舊齋場に於ける葬儀には喜多村、玉木、吉田、增山の各理事、桂會計課主任參列誄詞をおくり弔意を表した。
杉本庄一良君（昭六専法　昭九大商）　昭和十二年三月十一日

昭和十二年 卒業生氏名

法文學部法律學科

（二三三名）

阿河義明（香川）
安東誠一（兵庫）
飯田憲清（兵庫）
飯野重則（新潟）
池尻忠夫（福岡）
池畑弘雄（兵庫）
池原正巳（大阪）
石井達雄（兵庫）
石川貫之助（大阪）
石原小四郎（同）
稻井萬吉（愛媛）
入交好賞（高知）
岩崎繁男（大阪）
上田廣藏（京都）
植田又治（奈良）
植村利治（大阪）
氏井一夫（同）
瓜生數雄（福岡）
內山勇（佐賀）
榎本源三（大阪）
江本清隆（東京）
江見良孝（岡山）
大宮光雄（大阪）
岡野一隆（岡山）
岡野隆好（大阪）
岡本熙（和歌山）
奥野正一（三重）
奥野種次郎（大阪）
尾崎政明（高知）
小澤祐二（大阪）
金田晃（東京）
亀田要（德島）
河合辰三（兵庫）
川島通利（高知）
川戸正三（大阪）
川西昭夫（岡山）
喜多敏之（奈良）
喜田政雄（大阪）
北埜長（奈良）
日下克巳（香川）
隈本固平（福岡）
車正治（兵庫）
桑本重吉（鳥取）
小池一洲（和歌山）
小泉正義（同）
甲田伊太郎（大阪）
甲川彰彦（兵庫）
御勢秋德（和歌山）
小林貢（同）
小山市藏（大阪）
崔敏鎬（朝鮮）
齋藤眞吾（大阪）
酒井勳（同）
阪原淳太郎（大阪）
篠川良一（同）
柴田直一（同）
島田大八（熊本）
末吉忠孝（福岡）
菅野三郎（兵庫）
杉田直男（大阪）
杉本喜一（同）
祐保吉次（兵庫）
田中敬吾（大阪）
高桑敏行（福井）
高橋數眞（大分）
高松有爲（高知）
竹田義信（京都）
竹中清（兵庫）
田島久次（石川）
田中來宮（崎）
田中康三（兵庫）
田中作造（同）
辻菊雄（福岡）
土屋覺一（岡山）
寺西皓（大阪）
仲實（同）
中川嚴（同）
中川貫一郎（同）
中川次郎（同）
永田旭（岡山）
長富政夫（山口）
中西勝一（大阪）
中野太三（滋賀）
仲野道之助（大阪）
中村利一（兵庫）
西野哲夫（同）
西村幸生（三重）
西村久吉（大阪）
西山四郎（滋賀）
西良源治（兵庫）
橋本太郎一（同）
橋本正雄（石川）
原田年夫（兵庫）
平井正一（大阪）
平岡督三（同）
福井秀臣（鳥取）
福川壽（佐賀）
藤井靜雄（鳥取）
藤井福吉（島根）
藤戸道彦（大阪）
藤野四郎（廣島）
古川義男（京都）
古野憲輝（大阪）
寶定平太郎（石川）
細井三郎（大阪）
堀敏雄（愛知）
松下善夫（兵庫）
松田武彦（岡山）
松田尹（香川）
松本包文（兵庫）
松本政明（大阪）
松本彌太郎（奈良）
三宅博（香川）
三好恒雄（大阪）
向井重藏（同）
森健（愛知）
森田光典（高知）
森田安一（兵庫）
柳一隆（大分）
藪木八郎（大阪）
山崎福太郎（和歌山）
山本鐵男（大阪）
横田正（兵庫）
吉岡敬三（大阪）
吉崎歲藏（大阪）
吉田彰（愛知）
吉田中（秋田）
吉仲敏夫（奈良）
義間武熊（鹿兒島）
和田正二（大阪）

法文學部政治學科

（二三三名）

安東虎雄（兵庫）
池田彌一右衞門（同）
太田政男（岡山）
大西典輔（同）
荻阪操（兵庫）
久保敏夫（山口）
笹岡繁敏（德島）
志賀剛策（宮城）
下野龍三（大阪）
鈴木千代松（香川）
中筋福三（大阪）
橋本敏造（兵庫）
原田三郎（岡山）
原田剛（兵庫）
平田榮（福鹿兒島）
廣政俊視（廣島）
福田俊太郎（大分）
福田敏夫（兵庫）
古川壬子生（長崎）
北條茂義（香川）
松田德二郎（大阪）
八坂利武（大分）
山田義臣（山口）

法文學部哲學專攻科

（七名）

金山慈弌（大阪）
木下善平（北海道）
木村文雄（大阪）
丹農靖信（同）
豐島孝次（兵庫）
豐谷豐（愛媛）
山本辰藏（大阪）

法文學部英文學專攻科

（一名）

增田忠雄（大阪）

經商學部經濟學科

（三九名）

愛下正道（大阪）
淺岡定一（同）
跡見保光（同）
岩井邦治（兵庫）
上田泰通（同）
上田二一（大阪）
內山寧隆（岡山）
老田唯雄（兵庫）
大谷恭一（同）
尾形旨正（大阪）

加藤善規（福岡）
金森幹義（三重）
岸本種次郎（兵庫）
小西英一（京都）
小西秀夫（大阪）
酒井庄藏（同）
須谷久一（同）
高橋俊雄（北海道）
武石貞城（大阪）
田那正高（同）
辻本辰藏（同）
坪坂繁治（大分）
中尾宣雄（山口）
中尾秀嗣（長崎）
中島安一（島根）
長柄金吾（香川）
野長瀬正道（大阪）
林將哲（和歌山）
早田孟生（熊本）
飛田忠夫（鳥取）
日昔正雄（大阪）
平川治雄（廣島）
藤井喜代次（滋賀）
藤本榮治郎（大阪）
松尾和孝（同）
松岡一郎（岡山）
村上秀吉（兵庫）
山元勝治（滋賀）
吉田孝雄（和歌山）

經商學部商業學科

（一〇名）

加畑忠雄（京都）
河井美夫（大阪）
川田節（同）
佐藤嘉一郎（山口）
武田佳次（大阪）
多田米藏（同）
兵頭正隆（宮崎）
木田昇（長崎）
三日百一郎（大阪）
山中一夫（高知）

專門部第一部法律學科

（六十二名）

井上龍男（長崎）
岩田武雄（大阪）
池内正名（同）
石丸重之（佐賀）
盧大者（朝鮮）
仁部利夫（大阪）
西川武雄（廣島）
西田哲夫（京都）
富田金作（宮崎）
德永典爾（福岡）
張李興（朝鮮）
大江宇一（大阪）
大澤憲之進（岐阜）
大田義章（山口）
河野喜雄（同）
樺島明（福岡）
甘野秀太郎（大阪）
吉松靜夫（福岡）
吉村善治（奈良）
田中章之（山口）
竹内君太郎（鳥取）
橘三郎（兵庫）
田方滿夫（同）
園田靖治（熊本）
辻典治（大阪）
中武笹一（愛媛）
中曾閏身（廣島）
中山武夫（岡山）
南宮龍嶌（朝鮮）
永井暉（大阪）
中西潔（同）
中井英男（同）
村木實（同）
浦本哲彦（同）
粟坂諭（岡山）
倉橋幸三郎（大阪）
山本喜一（同）
藤村成明（兵庫）
文田勝雄（鹿兒島）
藤原正巳（愛媛）
藤田哲（大阪）
今野榮介（山形）
藤井榮治郎（大阪）
藤本喜代次（滋賀）
平川治雄（廣島）
日昔正雄（大阪）
飛田忠夫（鳥取）
早田孟生（熊本）
林將哲（和歌山）
野長瀬正道（大阪）
長柄金吾（香川）
中島安一（島根）
中尾秀嗣（長崎）
中尾宣雄（山口）
坪坂繁治（大分）
辻本辰藏（同）
田那正高（同）
武石貞城（大阪）
高橋俊雄（北海道）
須谷久一（同）
酒井庄藏（同）
小西秀夫（大阪）
小西英一（京都）
岸本種次郎（兵庫）
金森幹義（三重）
加藤善規（福岡）

專門部第一部商業學科

（一二六名）

伊藤二男（大阪）
井上稔（岡山）
井上重俊（廣島）
岩崎義二（鹿兒島）
市村安夫（岡山）
今井富藏（佐賀）
池田幸雄（三重）
池田音四郎（同）
今井市藏（兵庫）
林隆之（同）
橋本三郎（奈良）
橋本正（大阪）
畑中一男（兵庫）
濱村一誠（山口）
花村功德（島根）
新田和男（岡山）
西村龍夫（島根）
塚本吉雄（同）
塚井清（大阪）
田中實（玉兵庫）
田中正三（同）
高岡萬之助（同）
玉置敏雄（大阪）
高井藤吉（香川）
谷口晃（兵庫）
今井市藏（兵庫）
池田幸雄（三重）
武田秀一（岡山）
武田音四郎（同）
今井富藏（佐賀）
市村安夫（岡山）
岩崎義二（鹿兒島）
井上重俊（廣島）
井上稔（岡山）
伊藤二男（大阪）

（十八名）

稻岡美典（兵庫）
八田三郎（大阪）
橋本種治（同）
置鹽正三（兵庫）
川口治男（大阪）
西本力香（川）
堀田正三（奈良）
伸矢正典（大分）
中村平八郎（香川）
中島正規（同）
中木康夫（鳥取）
中山忠雄（大阪）
中島英雄（奈良）
中村隆（大阪）
田村稔（鹿兒島）
豐田穆（大阪）
中條得一（三重）
村上重治（同）
植田浩太郎（兵庫）
鶴飼正幸（愛知）
植村覺一（香川）
內井武夫（同）
臼井俊夫（鳥取）
野呂伸二（大阪）
脇坂正巳（和歌山）
河村義人（山口）
香取一也（大阪）
川崎源太良（同）
鹿島好（香川）
笠原德二郎（靜岡）
河瀨一義（愛媛）
片岡哲精（廣島）
田中新三（大阪）
田中秋人（同）
武田秀一（岡山）
武田音四郎（同）
池田幸雄（三重）
今井市藏（兵庫）
林隆之（同）
橋本三郎（奈良）
橋本正（大阪）
畑中一男（兵庫）
濱村一誠（山口）
花村功德（島根）
新田和男（岡山）
西村龍夫（島根）
塚本吉雄（同）
塚井清（大阪）
田中實（玉兵庫）
田中正三（同）
高岡萬之助（同）
玉置敏雄（大阪）
高井藤吉（香川）
谷口晃（兵庫）
今井市藏（兵庫）
池田幸雄（三重）
武田秀一（岡山）
武田音四郎（同）
今井富藏（佐賀）
市村安夫（岡山）
岩崎義二（鹿兒島）
井上重俊（廣島）
井上稔（岡山）
伊藤二男（大阪）
稻岡美典（兵庫）
八田三郎（大阪）
橋本種治（同）
置鹽正三（兵庫）
川口治男（大阪）
西本力香（川）
堀田正三（奈良）
伸矢正典（大分）
中村平八郎（香川）
中島正規（同）
中木康夫（鳥取）
中山忠雄（大阪）
中島英雄（奈良）
中村隆（大阪）
田村稔（鹿兒島）
豐田穆（大阪）
中條得一（三重）
村上重治（同）
植田浩太郎（兵庫）
鶴飼正幸（愛知）
植村覺一（香川）
內井武夫（同）
臼井俊夫（鳥取）
野呂伸二（大阪）
脇坂正巳（和歌山）
河村義人（山口）
香取一也（大阪）
川崎源太良（同）
鹿島好（香川）
笠原德二郎（靜岡）
河瀨一義（愛媛）
片岡哲精（廣島）
田中新三（大阪）
田中秋人（同）
武田秀一（岡山）
武田音四郎（同）
池田幸雄（三重）
今井市藏（兵庫）
林隆之（同）
橋本三郎（奈良）
橋本正（大阪）
畑中一男（兵庫）
濱村一誠（山口）
花村功德（島根）
新田和男（岡山）
西村龍夫（島根）
塚本吉雄（同）
塚井清（大阪）
田中實（玉兵庫）
田中正三（同）
高岡萬之助（同）
玉置敏雄（大阪）
高井藤吉（香川）
谷口晃（兵庫）
今井市藏（兵庫）
池田幸雄（三重）
武田秀一（岡山）
武田音四郎（同）
今井富藏（佐賀）
市村安夫（岡山）
岩崎義二（鹿兒島）
井上重俊（廣島）
井上稔（岡山）
伊藤二男（大阪）

黒田永次（愛知）
桑田昌彦（山口）
黒石直衛（兵庫）
窪添政明（同）
香山良信（和歌山）
栗林弘（大阪）
山川三郎（島根）
山口茂（岐阜）
山口章三重（同）
山本實（京都）
山口静男（徳島）
山本博通（大阪）
松村欽治（徳島）
松田秀彦（石川）
前田河正志（宮城）
麻那古誠介（佐賀）
眞野忠一（和歌山）
増野良員（山口）
前澤龍雄（福島）
牧田清次（和歌山）
毛呂修（大阪）
藤本保（兵庫）
文谷晴正（岡山）
福田通（大阪）
古川信顕（京都）
藤岡了暢（兵庫）
藤井武雄（山口）
古川定次（大阪）
二神猛（愛媛）
近藤晋一郎（岡山）
小竹敏造（和歌山）
小室清孝（島根）

後藤芳男（大阪）
小島幸雄（愛知）
小林豊（兵庫）
手柴義夫（福岡）
出道彦七（長崎）
阿部義人（山口）
荒木典夫（岡山）
酪文男（和歌山）
坂谷泰郎（三重）
北村勇夫（兵庫）
木村昌治（大阪）
金昌健（朝鮮）
木下清吉（大阪）
京谷幸雄（兵庫）
菊地國（福岡）
三澤三與茂（大阪）
光石博秋（岡山）
水田一夫（同）
三浦虎雄（奈良）
芝本辰男（大阪）
庄野政廣（徳島）
新家庸弘（兵庫）
篠田敏郎（岐阜）
志岐五六（長崎）
久松正（同）
瀬尾秀夫（大阪）
千住正男（佐賀）

專門部第二部法律學科

（三八四名）

入江和人（福岡）
石賀宣正（鳥取）
稲川一（兵庫）
板谷勉（岡山）
生島義一（大阪）
怡土寛也（同）
家光正春（岡山）
家長喜一（大阪）
池田勤（兵庫）
池田耕三（大阪）
今本益雄（廣島）
今井繁（岡山）
生田準（神奈川）
石津達郎（大阪）
石田磐男（鳥取）
池村正信（大阪）
稲木一市（同）
伊藤信一（同）
池本暇（長崎）
今田静人（鳥取）
猪子顕三（兵庫）
池邊勝三郎（大阪）
石黒與市（同）
林信治（同）
原田静雪（山口）
橋本治（兵庫）
濱崎清（同）
長谷川義男（同）
原田堅太郎（青森）
坂東忠良（徳島）
伴精二（山口）

林博康（富山）
橋本正隆（大阪）
橋本義雄（同）
林實信（同）
原恭三（和歌山）
林千一（大阪）
橋本誠之（同）
西依光太郎（福岡）
西辻藤一（滋賀）
西井大三（大阪）
西田信之助（兵庫）
西阪幸雄（同）
新岡秀雄（同）
西部陽三郎（富山）
西野金雄（大阪）
西村安之助（京都）
西端二郎（奈良）
西出福治（大阪）
西山政秀（高知）
法覚豊松（大阪）
堀川定勇（福岡）
道工道雄（廣島）
豊岡正忠（熊本）
土井義明（愛媛）
豊田一實（岡山）
友田光男（兵庫）
土井弘（同）
徳永憲一（高知）
豊川利雄（兵庫）
富山鹿太郎（岡山）
鳥谷平（佐賀）

徳田鉞一（香川）
中條又一（兵庫）
尾花春雄（徳島）
堅田格道（兵庫）
大野喜市（大阪）
岡田孝道（愛媛）
荻田正男（大阪）
奥山營治（同）
大田稔實（富知）
太田正彌（三重）
岡市廣次（大阪）
岡田正治（同）
折居邦夫（和歌山）
大倉鎌雄（京都）
沖田芳男（大阪）
大淵猛（同）
大垣新治（兵庫）
小川大三郎（大阪）
大黒順市（同）
大西松太郎（同）
大峯正雄（香川）
太田一雄（奈良）
大石大典（京都）
大谷信治（大阪）
大山英信（鹿児島）
奥村勇三（大阪）
大橋米（岡山）
大森二郎（石川）
大上照男（愛媛）
渡邊馨（兵庫）

渡邊實信（大分）
和田正衛（廣島）
脇田武男（大阪）
堅田格道（兵庫）
河村英視（山口）
河原勇（大阪）
神田幸二郎（同）
河相保知（兵庫）
加地清貞（愛媛）
河村與之助（大阪）
加堂正一（大分）
川上献三（鳥取）
川上昌幸（同）
柏村昌次（山口）
河谷四郎（兵庫）
河内島亨（鹿児島）
川本長次郎（大阪）
河村博行（同）
亀山孜（岡山）
上山滿雄（山口）
横田勝（兵庫）
吉本悍（山口）
吉田淺次（福岡）
芳倉賢治（奈良）
吉田三郎（大阪）
吉岡京興（同）
吉田一滿（同）
吉原亀雄（兵庫）

横井信義（愛知）
吉田巳代治（奈良）
吉田八郎（福井）
田中賀（大阪）
谷玄雄（和歌山）
高木忠之（大阪）
谷村弘一（同）
田上武二（石川）
高見秀雄（兵庫）
高橋辰男（同）
田中龍雄（大阪）
高瀬正夫（奈良）
田坂逸夫（廣島）
田中彰（奈良）
谷村武雄（大阪）
田部井禎彦（群馬）
竹林周平（大阪）
田中清敏（福井）
田中義亮（兵庫）
竹内知和（香川）
高野鐵夫（大阪）
高月四郎（愛媛）
田中辰雄（大阪）
田中重雄（兵庫）
大工巖（同）
高山右登（岡山）
田中孝昌（同）
田崎正夫（栃木）
太平庄太郎（大阪）
高松勇（同）
竹森哲二（東京）
田中安宣（島根）

田中富夫（和歌山）
高輪次夫（香川）
高橋將（同）
田部清（大阪）
田淵武治（同）
園崎忠夫（同）
曾我昭文（同）
相馬利雄（埼玉）
辻川義夫（兵庫）
坪内幸好（同）
津守一雄（和歌山）
塚本榮佐久（石川）
妻島治郎（愛媛）
辻正吾（岐阜）
津野愛（高知）
坪田正義（大阪）
津森一夫（同）
塚田篤（同）
浪花利雄（兵庫）
中村武夫（山口）
本勇大（分）
中野丈夫（大阪）
永井利夫（同）
永田松五郎（兵庫）
中安正弘（同）
永野毅（大阪）
長尾一雄（愛媛）
永留剛（大分）
縄田鴻造（山口）
中村榮一（島根）
中原拓一（岡山）
中川忠之（富山）
仲井清（兵庫）

中塚茂治（大阪）
中川文平（德島）
仲川勇作（奈良）
中矢貞義（愛媛）
中川秀武（長野）
永迎薫（大阪）
南部正男（同）
村井信一（京都）
村上三政（大分）
村瀬賢治（同）
山内一郎（高知）
山口房一（兵庫）
矢守正大（分）
山内隆光（大阪）
山内喜八良（奈良）
山澤忠治（大阪）
山口伊藏（同）
矢本信數（同）
山本大介（和歌山）
山下勇（岡山）
山内松三（大阪）
山本壽一（長崎）
山田進（大阪）
山口清（岡山）
山中正平（大阪）
山本慶一（奈良）
山本榴治（同）
松田梅樹（大阪）
松下賢（兵庫）
正木一孝（德島）
松田博之（大阪）
松山茂樹（同）
松本種次（兵庫）
丸岡龜由（香川）

楠永誠一郎（高知）
倉中靜雄（奈良）
草下治（大阪）
黒崎坐人（長崎）
工藤保信（德島）
山崎基伸（兵庫）
山根賢治（同）
山口房一（兵庫）
古市健次（富山）
藤本宗一（廣島）
古川再起（福岡）
古谷邦豐（高知）
藤尾康雄（兵庫）
福盛光信（鹿兒島）
福田隆二郎（大阪）
布野繁行（島根）
福本好正（同）
藤江社男（大阪）
藤本利博（福井）
藤本善三（大阪）
藤井欽一（同）
藤原國輔（長崎）
福地正生（三重）
近藤守衛（兵庫）
高仁奎（朝鮮）
胡谷哲次郎（廣島）
今野正二（山形）
小松原嘉一（奈良）
小林正治（大阪）
是常福治（兵庫）

松本重一（大阪）
松村榴治（同）
丸田正永（德島）
眞鍋正明（同）
松本一郎（大阪）
前田武臣（同）
松井直二（兵庫）
正木芳賞（德島）
松田梅樹（大阪）
寺居大士（滋賀）
天野峰三郎（大阪）
秋山浩彬（香川）
阿部明治（兵庫）
青石泰藏（和歌山）
安達一（大阪）
朝多勝賴（同）
淺田三郎（同）
青木康一（同）
安達末男（京都）
朝妻嘉胤（新潟）
安藤勝三（大阪）
青野正一（同）
粟山忠雄（兵庫）
秋田覺（岡山）
安達三二（鳥取）
淺野昌之（大阪）
佐野公敏（兵庫）
佐野利三郎（福井）
阪田力（兵庫）
三條一男（同）
坂本勳（同）
崎山幸吉（和歌山）

故引岩夫（岡山）
古村信吉（同）
講本政次郎（大阪）
小島茂（愛知）
小南恒司（兵庫）
江見喜三（岡山）
枝廣武夫（廣島）
寺居大士（滋賀）
天野峰三郎（大阪）
秋山浩彬（香川）
阿部明治（兵庫）
青石泰藏（和歌山）
安達一（大阪）
朝多勝賴（同）
淺田三郎（同）
青木康一（同）
安達末男（京都）
朝妻嘉胤（新潟）
安藤勝三（大阪）
青野正一（同）
粟山忠雄（兵庫）
秋田覺（岡山）
安達三二（鳥取）
淺野昌之（大阪）
佐野公敏（兵庫）
佐野利三郎（福井）
阪田力（兵庫）
三條一男（同）
坂本勳（同）
崎山幸吉（和歌山）

坂本正三（大阪）
才野木義雄（同）
佐藤晋（岡山）
坂井和十郎（三重）
齋藤文雄（石川）
澤原清（大阪）
坂本登（和歌山）
阪西與平次（兵庫）
澤田縞之亮（滋賀）
佐藤立三（三重）
鮫島正弘（鹿兒島）
才津正巳（長崎）
坂田種明（大阪）
金鐘圭（朝鮮）
北村忠三（高知）
衣笠千歳（岡山）
北岡信一（大阪）
喜多榮吉（石川）
北村七藏（三重）
岸本巖（岡山）
北村忠義（高知）
木村正義（奈良）
木下昌夫（兵庫）
北山秋雄（同）
木村良平（大阪）
金馬吉松（同）
貴島仙（鹿兒島）
湯原俊雄（大阪）
三木孫二（德島）
水路忠勝（兵庫）
水島福次（京都）
宮地善藏（佐賀）
宮本周一（山口）
三浦上（同）

宮田隆（福井）
宮永保（兵庫）
宮武太（香川）
宮本吉太郎（京都）
三波寅次郎（廣島）
宮本信一（兵庫）
白山忠雄（和歌山）
下原太郎（廣島）
白岩嘉一（兵庫）
椎木邦彦（山口）
城内季夫（奈良）
新名馨（大阪）
白土道德（福岡）
島ノ江順一（佐賀）
清水正夫（兵庫）
下農政市（大阪）
下西清朝三（重）
島田俊男（兵庫）
茂野淳（福岡）
島谷榮（廣島）
橋本正義（大阪）
房延禮二（大阪）
小關達也（京都）
小林清市（兵庫）
有馬保男（福岡）
阿部正三（大阪）
石合善吉（岡山）
池田正雄（兵庫）
池田數好（大阪）
池上猛夫（岡山）
泉川容男（大阪）
泉政次（石川）
尾關豐（德島）
尾崎正三（愛媛）
大原弘（廣島）
岡田三四二（兵庫）
小黑猛一（大阪）
尾崎藍（兵庫）
奥野林一郎（京都）
大久保忠仁（岡山）
大西良介（香川）
小川文三（廣島）
大石賢三（香川）
小笠原希人（高知）
岡田吉雄（鳥取）
脇田道邦（愛媛）
川口吉郎（高知）

森正平（佐賀）
森本一三（兵庫）
森脇道尾（大阪）
千田茂治（奈良）
杉原芳孝（岡山）
鈴木護（三重）
杉田友治郎（奈良）
杉村正夫（石川）

專門部第二部經濟學科

（五十四名）

田中三郎（大阪）
田中正（福井）
永田正勝（大阪）
村治正吉（兵庫）
村嶋幹男（三重）
上田敏夫（奈良）
牛島春日（佐賀）
上阪順造（大阪）
栗原靜人（長崎）
養父宗次（大阪）
山本省三（同）
矢景茂（同）
山下正美（德島）
松下典臣（大阪）
松本透（愛媛）
船越睦夫（鳥取）
福本信光（兵庫）
藤田猛（香川）
藤井正雄（兵庫）
伊藤武之（三重）
岩田賢一（大阪）
伊藤義一（兵庫）
富本幸男（鳥取）
大原弘（廣島）
尾崎三（愛媛）
岡田三四二（兵庫）
小黑猛一（大阪）
尾崎藍（兵庫）
奥野林一郎（京都）
大久保忠仁（岡山）
大西良介（香川）
小川文三（廣島）
大石賢三（香川）
小笠原希人（高知）
岡田吉雄（鳥取）
脇田道邦（愛媛）
川口吉郎（高知）

平野寅市（大阪）
森永政利（長崎）
杉山哲（神奈川）

專門部第二部商業學科

（一九二名）

石橋一幸（大阪）
伊藤隆夫（兵庫）
池上豐（同）
泉英三郎（大阪）
井原美登（同）
井上健三（同）
板倉光次（廣島）
石田稔（大阪）
伊藤義一（兵庫）
岩田賢一（大阪）
伊藤武之（三重）
泉政次（石川）
泉川容男（大阪）
池上猛夫（岡山）
池田數好（大阪）
石合善吉（岡山）
池田正雄（兵庫）
磯野新三郎（大阪）
生澤伊三郎（兵庫）
稻山久彌（東京）
石內俊二（大阪）
岩本秀雄（兵庫）
岩田誠治（大阪）
半田繁夫（同）

橋本數義（大阪）
林眞雄（德島）
蜂須賀繁一（愛知）
番田開輔（山口）
羽根田彌太郎（滋賀）
西山正男（大阪）
西本弘（同）
西田英宣（兵庫）
西澤良治（岡山）
西村惠夫（兵庫）
丹羽充朗（岐阜）
新田利男（岡山）
堀清彦（愛知）
本多義雄（大阪）
豐島信一（兵庫）
遠井一言（栃木）
富本幸男（鳥取）
大原弘（廣島）
尾崎三（愛媛）
尾關豐（德島）
岡田三四二（兵庫）
小黑猛一（大阪）
尾崎藍（兵庫）
奥野林一郎（京都）
大久保忠仁（岡山）
大西良介（香川）
小川文三（廣島）
大石賢三（香川）
小笠原希人（高知）
岡田吉雄（鳥取）
脇田道邦（愛媛）
川口吉郎（高知）

金子勇美（長崎）
川谷勝哉（大阪）
川瀬茂（同）
川島規秀（兵庫）
上山盛直（石川）
香川博（徳島）
川瀬光雄（兵庫）
角谷慶市（和歌山）
餘根田廣太郎（兵庫）
萬谷三司（大阪）
吉田肇（福岡）
米田兼光（兵庫）
吉田元男（大阪）
吉田榮一（同）
武内正義（同）
竹内一太郎（茨城）
高谷貞雄（滋賀）
田中正良（鹿兒島）
田中源三（兵庫）
田中安一（大阪）
高橋万祝（廣島）
田中茂克（大阪）
田中正明（同）
高濱進（石川）
田中稔（大阪）
津下治郎（同）
龜光男（同）
土屋義浩（岡山）
都築泰二郎（愛媛）
中川義光（大阪）
中島信一（同）
難波春雄（兵庫）

並河厚（兵庫）
中山芳夫（大阪）
中島光夫（島根）
長澤末治（大阪）
碓井正喜（同）
宇野忠雄（同）
宇野喜市（福井）
上村正利（香川）
野村肇（大阪）
延原四郎（岡山）
久保久治（石川）
窪田貞弘（大阪）
栗原辰巳（岡山）
黑田秋作（兵庫）
安永辰次郎（福岡）
山形義男（大阪）
山下正雄（同）
山口豐（兵庫）
山田禮男（大阪）
山形仁三（千葉）
矢野槙雄（香川）
山田悅三郎（同）
山口榮太郎（大阪）
山崎忠平（廣島）
山口力（兵庫）
山本好雄（山口）
松木米一（兵庫）
松下伊一（大阪）
松田薫（同）
松下邦光（愛知）
牧野大典（大阪）
松村昌一（兵庫）

前田才治（兵庫）
松崎義隆（千葉）
松本日出夫（佐賀）
松田賀三（沖縄）
松本善治郎（大阪）
正木實（同）
福田德治（奈良）
福田眞二（兵庫）
福岡明春（同）
藤井隆司（滋賀）
藤井英夫（京都）
福田弘簾（大阪）
藤田敏光（滋賀）
文昌旭（朝鮮）
藤田皐月生（奈良）
福田憲彌（兵庫）
小西恒次（大阪）
小林敏男（兵庫）
小林正六（新潟）
紺田淳三（奈良）
古森一男（兵庫）
小林正夫（大阪）
榮永勇（兵庫）
出口作次（同）
東勝之助（京都）
朝倉祐二（福井）
秋山正弘（岡山）
綾部幸夫（兵庫）
有山正次（奈良）
有馬英彦（鹿兒島）
吾郷一郎（島根）
淺野三郎（大阪）

榊原義三（滋賀）
坂根寅夫（兵庫）
崎山英太郎（大阪）
坂井佐佳士（福井）
岸田大助（東京）
木下敏夫（熊本）
木村素行（大阪）
木村健吉（富山）
岸本巍（京都）
木下勇（香川）
木田儀代（大阪）
北村勇（兵庫）
木村輝久（香川）
切石政治（和歌山）
水間正二（兵庫）
水谷弘次（鳥取）
源芳一（大阪）
溝邊武夫（大分）
水谷弘善（鳥取）
水谷正一（大阪）
小路吉男（和歌山）
志賀進一（佐賀）
白井種雄（大阪）
下井一郎（同）
島田嘗治（鳥取）
島本文雄（德島）
下野津高治郎（香川）
重松茂保（愛媛）
平川哲夫（神奈川）
平尾政晴（福岡）
平尾泰弘（大阪）
森高新三郎（同）

森山盛敏（沖縄）
元内敏雄（大阪）
森章一（同）
末志熊本
瀨尾孝夫（大阪）
杉原利正（同）
角田昌孝（岡山）
末吉福次（兵庫）

專門部第二部

文學科國語漢文專攻科

（七名）

二階堂博（和歌山）
岡本義信（大阪）
上西茂夫（奈良）
柳宗亮（大阪）
山田久一（同）
前野忠道（和歌山）
相原泰郎（兵庫）

專門部第二部

文學科英語專攻科

（三十三名）

濱本玉雄（兵庫）
萩野正一（兵庫）
濱田正春（和歌山）
西川暎三（兵庫）
堀江猪三郎（大阪）
藤後吉兵衛（鹿兒島）
富島實光（大阪）
岡井泰雄（三重）
與村久美（奈良）
大芝武三（兵庫）
加古直次（同）
柏木富藏（大阪）
香川一郎（同）
谷正春（京都）
村田一男（大阪）
久住眞吾（兵庫）
久保重雄（鹿兒島）
山本伊三郎（大阪）
山本一夫（同）
入木武三郎（富山）
增田幸一（兵庫）
松下清隆（愛知）
眞城桂一郎（高知）
政友隆三（大阪）
藤木喜一郎（兵庫）
是恒達見（大分）
左納四郎（大阪）
北村常雄（香川）
南春二（和歌山）
南出勉（大阪）
志茂龜治（兵庫）
森善光（高知）
末本宣一（兵庫）

關大ツーポス

◇陸上競技部

大阪室内選手權大會

四月七日　於大阪基督教青年會體育館

立高跳

一位、安井（關大）　1米35

立三段跳

二位、安井（關大）　8米42

ニユウージランド陸上大會

三月十三日

優勝、三段跳　戸上選手　15米26

優勝、走幅跳　仝　7米26

三月十六日　於ネピヤ（夜間競技）

三段跳　戸上選手　46呎10吋½

走幅跳　仝　21呎6吋

走高跳　仝　5呎9吋

三月二十一日　於ウエリントン市

三段跳　戸上選手　14米87

三月二十七日　於ネルソン市

三段跳　戸上選手　14米65

走幅跳　仝　7米78

近畿室内競技大會

三月二十一日　於大阪YMCA

立三段跳決勝

二位、近藤（關大）　三位、福田（關大）

走高跳決勝

二位、近藤（關大）

◇庭球部

九州對抗試合

本學倉光選手參加

三月二十八日　於甲子園コート

シングルス

關西			九州
NO1、倉光	6—2	6—1	小寺
	6—4		

番號はレードナンバー

關西學生選手權大會

シングルス

（出場者）1倉光　19玉井　24福田　28川勝　52廣瀬　63池北　65山崎　68奥村　88春山　96松田

ダブルス

（出場者）1倉光、奥村　7池北、福田　14玉井、松田　35廣瀬、川勝　43春山、山崎

自四月五日　於甲子園コート

單一次試合勝者　福田、川勝、廣瀬　池北、奥村

單二次試合勝者　倉光、廣瀬、池北

複一次試合勝者（廣瀬、川勝）

（次號に續く）

◇籠球部

關大倶對日本生命

四月一日　於大阪YMCA

關大倶樂部　2—0　日本生命

四月五日　於大阪YMCA

關大倶樂部　45—35　大商倶樂部

◇米式蹴球部

關西地方に於けるアメリカン・フツトボールは、唯一の關大チームに依つてのみ東都軍を迎へてゐたが、今度關西米式蹴球倶樂部の結成をみて、之が記念として十四日午後二時より神戸東遊園地に第一回試合を擧行す。

◇野球部

對明治大學定期戰

四月三日　於東京神宮球場

第一次試合

明大　7A——2　關大

（關大　0100000100＝2
（明大　0021300 1A＝7

第二次試合

四月五日　於東京神宮球場

明大　11A——5　關大

（關大　2000000003＝5
（明大　4012031 0A＝11

本年度入學志願者

肥下光次郎　投手　堺中學

釣常雄　投手　姫路中學

川崎延實　投手　北海中學

吉川義次　捕手　和歌山商業

木下政文　捕手　鳥取中學

綿田清　遊撃手　興國商業

丸山堅三　中堅手　米子中學

小島隆一　中堅手　京阪商業

大久保慶久　右翼手　吳港中學

◇航空部

（航空研究會）

關西大學航空研究後援會の結成が昨年前學生主事矢島彪氏並に關西大學航空研究會會長賀來俊一先生に依り提唱せられたる處、關西大學關係者及び先輩其他各方面より之が組織樹立の要望の聲或ひは激勵の辭等實に夥しい聲援に接せり。併し當時は結成の提唱も星雲の狀態を脱し得ざりしが其後增山忠次先生、白川朋吉先生、長谷川長大佐、原田鹿太郎先生、戸波次郎氏、陸軍航空本部監督班田中晃中佐、玉宮航空官、日本航空輸送會社大阪支所長石田房雄氏、朝日新聞社航空部

次長新野百三郎氏、矢島彪氏、其他航空界有力者等より成れる準備委員會が昭和十一年九月二十五日堂ビル清交社に於て盛大に開催せられ、茲に於て着々其の形を成し、愈々具體的結成軌道に乘りて障害を破り難を越え征途についたのである。

而して關西大學航空研究後援會長增山忠次郎氏其他諸氏の御後援に依り前に發表せる如くアカシヤ木工（グライダー）株式會社に於てグライダー、プライマリートレーニング一機、セコンダリープレーン一機を來る二十五日製作完成の豫定なり以て城東練兵場大阪朝日新聞社格納庫に於て軍官民有力者並に後援會員百餘名列席の下に五月初旬に華々しく發會式擧行後グライダー披露式を開催せんとす

附　記

春季特別飛行機操縱練習

場所　盾津大阪陸軍飛行場

期間　自三月二十日　至三月三十一日

參加人員　拾參名

春季特別グライダー操縱練習

場所　大阪城東練兵場

期間　自四月一日　至四月十日

參加人員　拾貳名

在學中、其の優秀なる技術を以て本學航空部の名を顯揚せし荒川少意氏（昭和十一年度大法卒）は、八日市飛行第三聯隊に入營後、今回創めて設定をみたる官名、操縱幹部候補生として本邦唯一人の榮譽を擔ひて合格せし事は欣快とする處である。

學生

東亞研究會

東亞諸國各般の事情を研究し、東亞諸國學生相互の理解、親睦の增進を計り、以て亞細亞光復の理想に邁進するを目的として組織せられる關西東亞學生聯盟の重要なる一員として、目覺しき活躍をなしつゝある本會は、新學生を迎へるに際し本會の概要をば簡單に說明せんとす。

本會は目的達成の爲に左記事業を行ふ

一、支那語講座の開設、奧平定世先生を迎へ毎週二時間支那語講座を開く、新入生諸君の爲に四月より支那語の第一歩、四聲の讀み方より始めらる。

一、東亞問題研究會

一、東亞事情講演會

一、座談會

一、機關誌の發行、昭和十年度本會々誌は發刊がおくれたれど、第一學期の初頭に有益にして豐富なる內容を山と盛つて發行する筈、

一、來朝學生との交歡會

一、其他有益なる諸事業

本會は本學教授大山彥一先生を會長として、御熱心なる御指導の下に、前記諸事業の貫徹、目的達成の爲に、會員一同たゆまざる努力をつづけつゝあり。

尙、本會の支那語講座は便宜上千里山學部と專門部と別々に開かるゝも、事業の遂行は學部專門部一致協力の下に、あくまでも積極的に乘り出して活躍して居るものなり。

新入會員募集　今や世界の中心は東亞に集れり、吾々新日本の青年學徒は大いに世界を論じ躍進日本の指導に微力を致さねばならぬ、今や日本を知る事なくして世界を論ずる能はざる時代なり、又眞の東亞を理解せずして眞の日本の姿をば認識し得ず、東亞を正しく認識し、日本を正しく理解し、以つて大いに世界を論ぜんとする憂國の青年は本會に來れ、幸ひ支那語の講座は初歩より開設せらる、來れ！同志よ、本會に!!吾等は双手を擧げて歡迎せん。（專門部石田記）

基督教青年會

既報後の本會日誌拔萃を綴りて敬愛する諸兄の御援助に感謝したいと存じます

十二月九日　午後七時天六學舍にて專門部二部青年會を中心に昭和十一年度最後の定期集會を催し、本學先輩櫻井猶二郎牧師の奬勵あり、會後ヒム　レコード　コンサートをなせり

一月六日　全關大青年會新年親睦會並に月例集會を催し新年度の方針に關し協議す。

一月二十日　世界學生聯盟祈禱日（萬國同一日）の祈禱會を大阪學生聯盟主催にて基督教青年會館にて守る。本學より千里山、專門部各代表派遣各大學代表と共に祈る。

三月二十日　尾崎政明、石原小四郎兩兄送別祈禱會を千里山學舍英文科教室にて守る。

其他定例幹事派遣

猶三學期は試驗期の爲め聖書研究會及二月の合同月例集會を休會致しました。

希望に燃ゆる新入學生諸兄の榮ある入學を祝し、基督者學生並に有志の入會を歡迎す。

右記事務所宛申込まれたし

大阪市東淀川區中津濱通四ノ四

（木下淸方）

關西大學基督教青年會事務所宛

本學學報は廣く校友各位に送呈致すは本意でありますが何分豫算の關係もあり、巨費を要しますので維持費制度により頒布致して居ります。維持費は年額壹圓でありますから精々御申込願ひ度、又維持費切れの方は發送封皮に維持費切の印を押して御通知致しますから御拂込下さい。

關西大學學報局

學報申込書

一金　圓也　但學報維持費　ヶ年分（自昭和　年　月　至昭和　年　月）

右金額相添へ申込候也

昭和　年　月　日

氏名

明治 大正 昭和　年　學部 專門部　科卒業

一、勤務先

一、現住所

關西大學學報局御中

拂込方法　振替貯金、郵便爲替　（不用の文字を抹消して下さい）

俳壇

朝冷選

三月例會

三月二十三日（火）午後六時より、天六學舍に於て開催す、採錄句左の通り

安井　龍章

春潮にどつと柳の芽がふき出でる
劇すゝみ椅子に寄る若き妓は眠る
春灯に濡れてフリーヂヤ咲く清ら
行きゝ絶えて廊の春燈靜もれり

神屋敷蒼生

春宵やバス待つ乙女の影淡き
春の夜の紫煙たなびき句座なごむ

中塚　素木

櫻草の花ほのと映え安ら臥す
朧夜の潮に遊ぶ人魚かな

谷口　淙一

路地に聞く生計のミシン春の宵

永幡彌壽夫

病室の陽に暖かく蠅とゐる
看護婦ら日を浴び憂なく笑めり
花壹女に犬吠えてゐる春うらゝ
夕寒く胃に泌む臭ひ街に入りぬ
朧夜の牛車に笛を吹く男
淺春の窓の女に灯は和めり

藤井鬼峯子

春の夜は卒業式の話など
春の夜の火鉢かき寄す旅の宿
旅の湯に更けて入りたり春の夜

黑杭　豆刀

鐵橋の朧になほも汽車ゆけり
鐵橋の朧を嚙みて汽車生れぬ

四月例會豫告

一、日時　四月二十三日（金）午後六時
一、場所　天六學舍三階
一、兼題「春光」「雜詠」五句
學生、校友の參會歡迎
有田朝冷先生出席

大正十一年六月十五日創刊
昭和十二年四月十日印刷
昭和十二年四月十五日發行

編輯兼發行人　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　關西大學學報局　神屋敷民藏

印刷所　大阪市北區堂島上三丁目十五番地　谷口印刷所

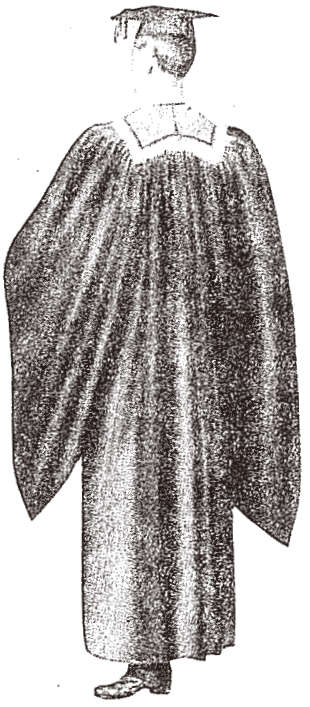
發行所　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　關西大學學報局

不許複製

關西大學

天六學舍　大阪市東淀川區長柄中通
本部 專門部 電話 堀川 一〇三九 一七五六 一二六七 五〇〇
振替口座 大阪 一二六七五

千里山學舍　大阪市外千里山
學部 發科 電話 吹田 一二三 吹田 四六一



Kansai University
Gown
← Style No. 1
for Masters

S yle No. 2 →
for Students

店舗移轉御披露

多年格別の御愛顧を賜つて居ります弊店は今般左記に移轉致しました。

大阪市東區東雲町二丁目

工場其他全般の整備を完了し御用命をお待ち申して居ります。

紳士服並ニ
關西大學制服

長谷屋洋服店

電話東⑨④四七〇六番

關西大學學報　第百四十八號（昭和十二年四月十五日發行）

高等・專門・大學生諸士の書店としての

當販賣部東店は、常に店内の充實をはかり、あらゆる專門書を取揃へ、皆樣の御來店をお待ちしてゐます

何卒書籍に關する御用は弊堂を御利用下さいませ

●主要販賣圖書

法律・經濟
商業・工業
機械・產業
宗教・哲學
文學・社會

駸々堂心齋橋販賣部

市電心齋橋下車北へ三軒目の東兩西店
電話船場一〇〇七番を呼び出し下さいませ

大阪市南區東清水町九二　駸々堂出版部　電話南一一五四・二八〇七番